



三重大学



男女共同参画推進専門委員会

Advisory Committee for the Promotion of Gender Equality Report 2014
MIE UNIVERSITY

報告書2014



三重大学

目 次

はじめに	1
I 特集 「ファザーリング全国フォーラム in みえ」	
1. パネルディスカッション 「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは ～新しいカタチの組織・教育・生活～」	2
2. ワールド・カフェ「100 人男子会×女子会（だんじょかい）！～学生だけの 本音ミーティング in みえ」	5
3. 「ファザーリング全国フォーラム in みえ」資料集	7
II 男女共同参画推進専門委員会の活動	22
III 共通教育授業	
1. 「男女共同参画 基礎」（前期，統合教育科目，総合科目）	23
2. 「男女共同参画 実践」（後期，統合教育科目，通常科目）	24
IV 部局の取組み	
1. 教育学部男女共同参画推進委員会	30
2. 工学部男女共同参画推進委員会	35
3. 生物資源学部 USR 委員会	35
V 地域との連携	
1. 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」	36
2. 「女性の大活躍推進三重県会議」	38
VI 国立大学協会の取組み	
1. 国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会報告	40
2. 国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査結果	42
VII 資料集	
1. 三重大学男女共同参画推進組	46
2. 三重大学男女共同参画推進委員会規	46
3. 三重大学男女共同参画推進専門委員会細則	47
4. 三重大学男女共同参画推進学生委員会内規	49
5. 三重大学男女共同参画推進室内規	50
6. 2014（平成 26）年度三重大学男女共同参画関係委員会委員等名簿	51
7. 三重大学男女共同参画推進専門委員会活動ダイジェスト版	52
追悼 元三重大学学長アドバイザー 鈴山 雅子氏逝去	58

はじめに

三重大大学は、平成 20 年 7 月の三重大大学男女共同参画宣言を始め、女性研究者支援モデル育成事業の推進、全学組織の男女共同参画推進委員会及び専門委員会の構築・運営、男女共同参画授業の開講等を行うとともに、行政や企業との連携による男女共同参画事業を積極的に推進しています。

平成 25 年 10 月には、三重県「男女が生き生きと働いている企業」認証を取得し、同年 11 月には、三重県知事表彰「グッドプラクティス賞」を受賞しました。特に、女性の能力活用、男女共同参画、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）、次世代育成支援及び社会貢献において、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法等に定める基準を上回る規程を備えている事業所として認められ、三重県及び東海地域の国立大学法人として初の認証取得及び受賞となりました。

現在、本学の女性教員の比率は約 15%、女性職員の比率は約 65%で毎年増加傾向にあり、執行部に 1 名、事務部の課長以上の職に 5 名、経営協議会に 2 名の女性が就任しており、意思決定の場に積極的に関わっています。

平成 26 年度は、6 月のファザリング全国フォーラム in みえにおいて「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは－新しいカタチの組織・教育・生活－」をテーマとするパネルディスカッション及び文部科学省との連携によるワールド・カフェ「100 人男子会×女子会！学生だけの本音ミーティング in みえ」を開催し、行政・企業・NPO・大学の関係者や学生と共に男女共同参画先進県三重を創るための真剣な討論を行いました。

その後、11 月に発足した「女性の大活躍推進三重県会議」に会員として参加するとともに、顧問として活動を支援することとなりました。

また、次世代を担う学生たちが男女共同参画について学ぶ「男女共同参画基礎（前期）・実践（後期）」の授業を開講し、総合大学に相応しい人文社会、教育、医学、工学、生物資源の全学からなる講師を迎え、今なぜ男女共同参画なのか、何をすべきかなどの命題について学び、地域との連携による実践活動を行う人材の育成に努めました。

本報告書に、平成 26 年度の男女共同参画推進活動をまとめ、冊子やホームページにて公表しています。三重大大学の全教職員が、仕事と生活との調和によって生き生きと働くことができるよう、本報告書が有効活用されることを切実に願っています。

最後に、昨年、逝去された元三重大大学学長アドバイザー鈴木雅子先生の輝かしい業績を引き継ぎ、男女共同参画の先駆的大学としての三重大大学を創ることを誓うとともにご冥福を祈ります。

平成 27 年 3 月

理事・副学長（企画・評価・環境担当）
朴 恵 淑



I 特集「ファザーリング全国フォーラムinみえ」

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」が、2014(平成26)年6月28日(土)、四日市市文化会館において、ファザーリング全国フォーラムinみえ実行委員会(NPO法人ファザーリング・ジャパン、ファザーリング・ジャパン東海、パパスマイル四日市、みえ次世代育成応援ネットワーク、四日市市、三重県)の主催により開催されました。

三重大学は、協力機関として参加し、分科会11としてパネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」を主催し、産官学民を代表する7人のパネリストと共に200人を超える参加者が、三重県の男女共同参画をさらに推進するためにどうしたらよいかを考えました。

また、文部科学省主催の分科会10「100人男子会×女子会(だんじょかい)！学生だけの本音ミーティング」に100人を超える本学学生が参加して、ワールド・カフェ形式で男女共同参画について話し合いました。



分科会11ポスター



分科会10ポスター

1. パネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」の分科会11として、三重大学主催のパネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」を開催しました。

朴恵淑三重大学理事・副学長がコーディネーターを務め、パネリストとして徳倉康之NPO法人ファザーリング・ジャパン事務局長、末松則子鈴鹿市長、西岡慶子(株)光機械製作所代表取締役社長、江崎貴久(有)オズ(海島遊民くらぶ)代表取締役、内山智裕生物資源学研究所准教授、また学生代表として金川多恵三重大学男女共同参画推進学生委員会委員長と人文学部3年生の江口春斗さんが参加し、これまでの取り組みや活動状況及び男女共同参画に向けた考え等を述べました。

その後、200人を超える参加者と共に「男女共同参画先進県 三重」を創るため、これまでの成果を共有し、課題を見出し、未来像を探りました。



「ファザーリング全国フォーラムinみえ」分科会11



＜左から＞末松 則子 鈴鹿市長, 西岡 慶子 (株)光機械製作所代表取締役社長, 徳倉 康之 ファザーリング・ジャパン事務局長, 江崎 貴久 (有)オズ「海島遊民くらぶ」代表取締役



＜左から＞朴 恵淑 三重大学理事・副学長, 江口 春斗 三重大学人文学部3年生, 金川 多恵 三重大学男女共同参画推進学生委員会委員長, 内山 智裕 三重大学大学院生物資源学研究科准教授



パネリスト
末松 則子 鈴鹿市長



パネリスト
西岡 慶子 (株)光機械製作所
代表取締役社長



パネリスト
徳倉 康之 ファザーリング・ジャパン
事務局長



パネリスト
江崎 貴久 (有)オズ「海島遊民くらぶ」
代表取締役



パネリスト
内山 智裕 三重大学大学院
生物資源学研究科准教授



パネリスト
金川 多恵 三重大学男女共同参画
推進学生委員会委員長



パネリスト
江口 春斗 三重大学人文学部3年生



コーディネーター
朴 恵淑 三重大学理事・副学長

2. ワールド・カフェ「100人男子会×女子会(だんじょかい)！～学生だけの本音ミーティングinみえ」

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」の分科会10として開催された、文部科学省主催の「100人男子会×女子会(だんじょかい)！～学生だけの本音ミーティングinみえ」に、三重大大学男女共同参画推進学生委員会の学生たちを中心に県内外から115人の学生とファシリテーターとして本学人文学部3年生の江口春斗さんが参加し、ワールド・カフェ形式で、学生自身が希望する将来の「生き方」や「働き方」、パートナーとの関係などについて考え、自分たちの希望を実現するには何が必要か、どうすればよいか、男女共同参画の観点から本音で語り合いました。

はじめに、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長 藤江陽子氏から「男性と女性が共にいきいき過ごせる社会をつくりにはどうすればよいのかを一緒に考える機会としたい」と挨拶があり、続いて、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 萩原なつ子教授から「数字で見る男女共同参画」と題したミニミニ講義の後、本学人文学部3年生の江口春斗さんがファシリテーターとなり、学生達は5～6人ずつのグループに分かれて、10年～20年後の姿を想像しながら自分らしく生きるためには何が必要なのか意見を出し合ってまとめ、発表しました。

最後に、NPO法人ファザーリング・ジャパン吉田大樹氏及び萩原なつ子教授から講評をいただきました。

次世代を担う学生たちが、しっかりとした男女共同参画意識を持ち、自分たちの将来を考える良い機会となりました。

＊ 文部科学省が作成した「100人男子会×女子会～学生だけの本音ミーティングinみえ」報告書は下記URLからご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/_icsFiles/afeldfile/2014/10/01/1352111_h26.pdf



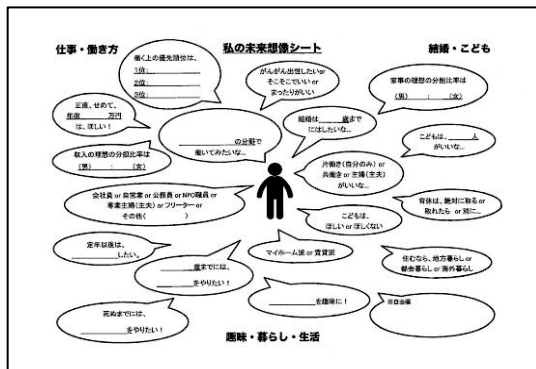
開会挨拶:藤江陽子文部科学省男女共同参画学習課長



講師:萩原なつ子立教大学大学院教授



ファシリテーター:江口春斗三重大学人文学部3年生



私の未来想像シート



学生同士の本音トーク



グループごとに代表者が発表



ゲストコメンテーター: 吉田大樹氏
NPO法人ファザーリング・ジャパン

3. 「ファザリング全国フォーラムinみえ」資料集

(1) 「分科会10」, 「分科会11」参加者数

区分		分科会10参加者数	分科会11参加者数
三重大学	学生	102	100
	教職員	9	11
	小計	111	111
学外	学生	14	110
	学生以外	3	
	小計	17	110
合計		128 (内学生 116)	221

(2) 「分科会10」報告書

分科会10「100人男子会×女子会！学生だけの本音ミーティングinみえ」の主催者である文部科学省が作成した報告書は、下記URLからご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1352111.htm

(3) 「分科会11」アンケート集計結果

三重大学主催の分科会11「産官学民の連携による日本を変えた男女共同参画とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」のアンケート集計結果

2014(平成26)年6月28日実施

参加者数221人, 回答者数84人, 回答率38%

問1-1 性別

性別	人数	割合
男	54	64%
女	30	36%
合計	84	100%

問1-2 年齢

年齢	人数	割合
10代	40	48%
20代	14	17%
30代	7	8%
40代	9	11%
50代	12	14%
60代	0	0%
70代以上	1	1%
回答なし	1	1%
合計	84	100%

問1-3 職業

職業	人数	割合
会社員	3	4%
団体職員	1	1%
公務員	27	32%
教員	2	2%
自営業	1	1%
三重大学生	47	56%
他大学学生	1	1%
無職	1	1%
回答なし	1	1%
合計	84	100%

問2 参加した動機(複数回答)

参加した動機	人数	割合
興味があった	29	33%
具体的な目的があった	7	8%
三重大学教職員からの紹介	39	45%
友人・知人の誘い	6	7%
その他	5	6%
回答なし	1	1%
合計	87	100%

問3 感想

感想	人数	割合
非常に良かった	24	29%
良かった	46	55%
普通	10	12%
やや不満	4	5%
期待はずれ	0	0%
合計	84	100%

具体の話が聞けた。生きた話が聞けた。
事例が多かったのでよかった
自己紹介が長すぎた。
新しい考え方に出会えたから
さまざまな分野のリーダーの話を聞くことができたから
主夫について深く知れたから
男女共同参画について具体的な取り組み事例を聞けたから
実際に行われている政策などがよくわかったから
興味深かった
さまざまな観点からテーマを見つめている印象を受けた。
いろんな分野の話が聞けて自分の考えが広がったと思います。
たくさんの先生、学生から男女共同参画の話を聞けたから
男女共同参画のありがたが何となくだけどわかったと思います。
いろいろと学べた。
お昼ご飯の時間が短い。
多くの分野において男女共同についての活動を聞けたから

問4 参加して得られたこと又は印象に残ったこと

どの事例もそれぞれの方の長年の努力と工夫から成り立っていて、とても参考になりました。特に各自の”思い”を強く感じ、元気をもらいました。
学生の意識が知れたこと
学生自身が男女共同参画に少しでも関心を持っていくことが大切だと思います。三重大大学の男女共同参画委員の金川さんのコメントとてもよかったです。
パネリストの数が多すぎたのでは 議論が深まらなかった。
パネリストが多すぎる。もう少し深く話を聞きたい。
育児は負担なもの、夫婦二人でお互いにその負担を減らしあうのが必要との内山先生の言葉 観光の話や大学内の話が興味深かった。
まだまだ進んでいない男女共同参画のなかで、パイオニアの人の話を聞けたことです。
パネリストの皆さんの熱い思いが聞けて良かった。
企業の素晴らしい取り組みを知ることができた。
学生の取組が聞けて良かった。
女性の管理職を1人増やすことの難しさ
三重大大学の学生さん(金川さん、江口さん)の考え方が素晴らしかった。
目的意識がブレず非常に明快
女性管理職の方のしっかりした考え。学生の金川さんがしっかり子育てした後、又、やりがいを持った仕事に復帰できる方法は？と言っていました。男性社会がそういった働き方をしてこなかった現在、違うことを許しにくい日本の社会では、本当に難しいなと思いました。
今後の自分の仕事に反映させていきたい。
地域の具体的な取組内容を聞けて良かった。
活気のある学生さんが居てよかったです。
パネリストのお話はどれも素晴らしかったです。学生さんたちもしっかりしていて未来は明るい！
昔は女性の活躍の場が少なかったが、今後は女性の細やかな良い部分を活かして活躍できる場が広がる予感がします。
同じ学生が活躍する姿を見ることができたのでよかったです。
さまざまな実践例を知ることができた。 学生2人のお話がとてもしっかりしていて、とても素晴らしいと思いました。
各企業、各団体がそれぞれ目標を定め動いているのだなと感じた。
質の高い仕事をして、家族に関わっていききたいと思います。
主体的な学生の先輩の意見 社会で男女の違いに意識を向け、考えている人たちの話を聞けて良かった。
階段を上がらないと上にいけないという言葉がとても印象に残りました。
わたしは今まで性差別を感じたことはないが、それはまだ学生であるから、社会へ出るとまだ現存するということがわかった。
このような企画を開催したり授業や委員会があつたりするのに、三重大大学は男性の育休の環境があまり整っていなかったのが意外だった。
国民が住みよくなるような社会が男女共同参画だということ
男女共同参画という考え方は、働き、その立場に立ってみないとわからないということ

僕は昔から主夫について興味があったのですが、より深く知ることができました。
男女共同参画大事！
WLBについての話で、「仕事は限られた時間で最高の成果」といった話があったが、印象に残ったし、良い考え方だと思った。また、男女共同参画はすでに成されているというイメージは自分も持っていたので、様々な話が聞けて良かった。
自分たちと同年代の人が、前で堂々としゃべっている姿を見て、自分もあそこに立てたのかなと思ったら頑張ろうと思いました。
各地方自治体が男女共同参画について考えているのだなと感じた。
これからは、男女関係なく一人一人が共同参画についてしっかり考えていく必要があるということが分かった。
貴重なお話がたくさん聞けて勉強になりました。
「男女」ではなくすべての人が社会の人間であるということ。 WLBの考え方はすごく印象に残った。
男女共同参画について少し理解できました。
かくされた男女共同参画
男女という区別ではなく、社会に生きる一人の人間として生きていかなければいけないと感じました。
「課長になる力がないから課長にならないのではなく、課長になって課長の力がつく」その通りだなと思いました。
光機械製作所の話を聞いて、製品作製における男女共同参画の考えというのは盲点だなと思いました。また、大学事務の中でも育休の考えが広まっていないと聞いて、まず、公の団体でその考えがないのはおかしいと思いました。 一人一人が男女共同参画の考えをもち行動することが必要だと思いました。
男女共同参画社会の実現は口で言える程簡単じゃないと思った。
社会を変えるのは制度ではなく、個人個人の意思ではないかという先輩の言葉がとても印象的でした。
正直「新しいカタチ」といわれてもピンとこなかったけれども、たくさんの人の話を聞いて、日本のジェンダーギャップ問題を痛感した。
男性と女性の差別や理解のなさは、性差別よりも年代によるものという考えは間違いだったということ。
三重県でも各地域、企業で男女共同参画推進の取組がいろいろあることを知ることができてよかった。
四日市のシンポジウムはきれいです。
男女共同参画に貢献した人の話が聞けたことがうれしかった。 観光によって人のつながりが広がっていくという言葉がとてもステキだと思った。
ふだん話を聞くことが難しい人からの意見が聞けてどういった考えをもっているのか知ることができました。
これからは、男女共同参画の社会を作っていくのは若い世代であるわたしたちであるということ
光機械製作所様 ジェンダーフリーな人事だけでなく、多様な人材を文系理系を問わず活かすための人事が印象的でした。ダイバーシティのあるマネジメントに活かしたいです。
男女である前に同じ社会に立つ人間であるといったことが大切だとわかった。
同じ視点をもつ女性の存在の大切さをとても理解しました。
みなさんの強い意志

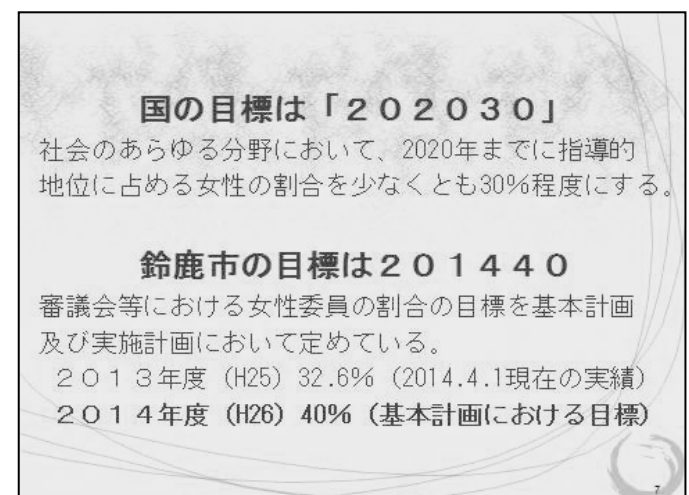
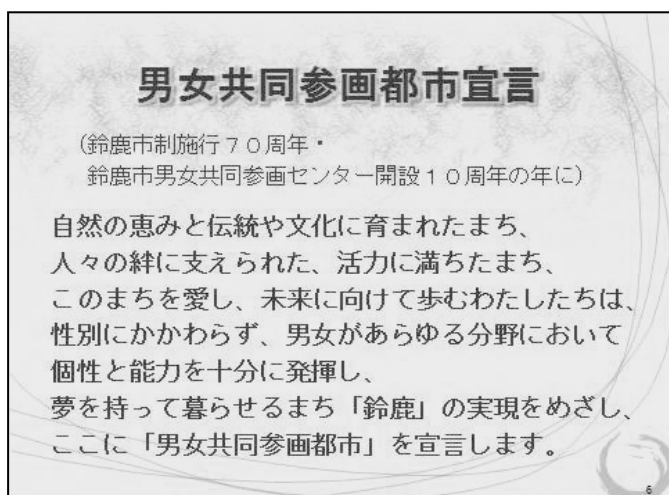
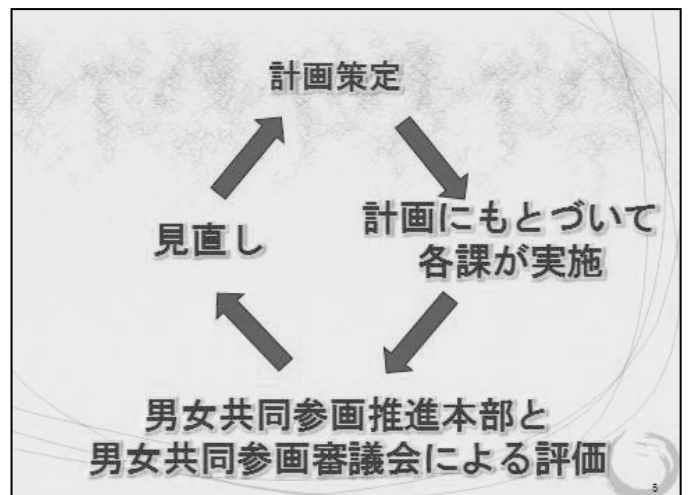
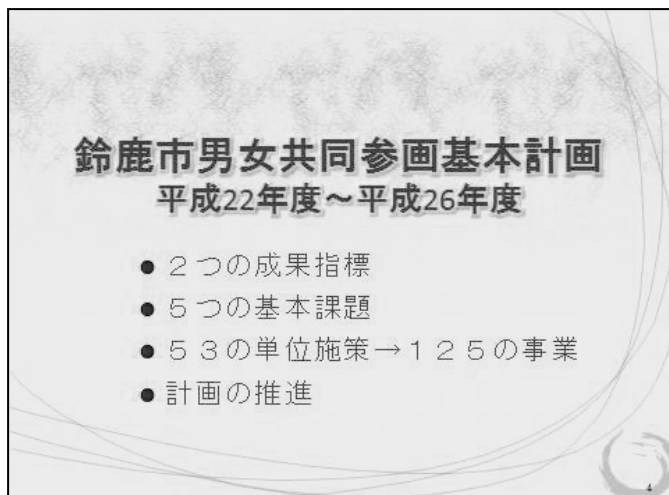
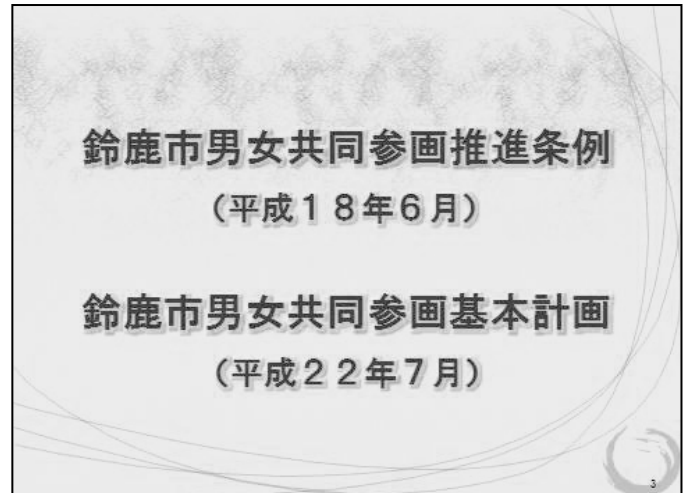
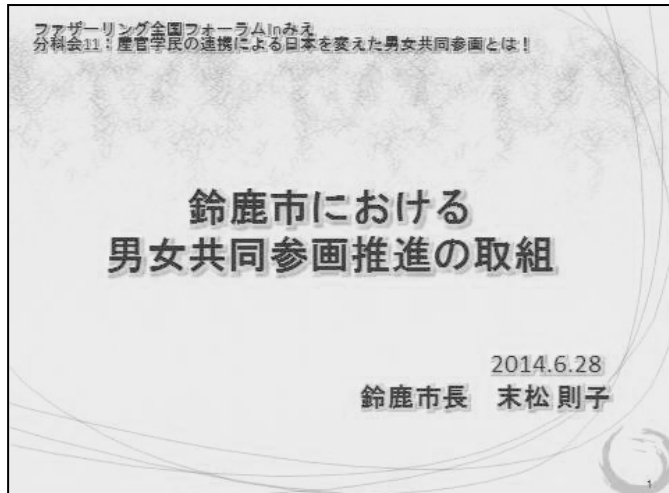
男女共同参画の具体的な現状が分かった。
男女共同の大切さ
男女共同参画についての印象が変わった。どのように変わったかというときれいごとを並べた話というか、道徳的な主張かと思っていたけど、男性にも女性にも心の負担が軽減されたり、お互いの理解が深まったり仕事の効率が上がるかもだし、とても合理的で画期的な主張であると思った。いいこといっぱい！！
また、女将さんの話で「観光」についてのイメージが変わった。観光業って人と人をつないだり、文化を残していったり、そういう素晴らしい仕事なんだと、心にすごく伝わってくるプレゼンだった。
様々な人の男女共同を実施するための活動

問5 男女共同参画推進のため意見、希望など

個性をまっすぐに見据えて活動し、行動することが大事だと思います。
お互いが頼りあうのが大切
東京以外の地域でも、東京と同じくらいのエネルギーをもって男女共同参画に関する活動が可能だと分かった。私は地方の県庁職員だが、自分に何ができるか、再度、考えてみたい。
パネラーの文字が小さくて読めませんでした。
自治体が男女共同参画の先頭に立って動いていながら、女性がほとんどの福祉の職場は、昇格が5年以上本庁に比べて遅れており、どちらの側もそれがおかしいとは気が付いていない。公務員の方が、本音の意識としては、共同参画の意識はうすいと思うので、取組も形式的で本音に迫れないと思う。
質問をしたが男子学生の「女性があがることで、能力のある男性が落とされるのではないか」との発言にはびっくりしました。今まで、その逆がいっぱいあった社会なのだと思うが、自分の男性という立場からしか考えられない現状があるのかなと感じた。
気が付いた点：パネラーの机の前の文字が小さくて見づらかったです。
女性の管理職登用比率の話がありましたが、男性でも女性でも一生懸命キャリアを積み管理職にはなれると私は思います。ただ、現在はそのキャリアを女性が積む前に退職せざるを得ないことが多いのが問題だと思います。ぜひ数値目標にばかり注目するのではなく、そういった前提を解消していく取組を続けていただきたいと思います。
各団体が率先して行えば、一般市民もついてくると思います。
男女の互いの”尊重”が必要だと思う。
勉強になりました。
女性の社会進出が進めばいいなと思いました。
特にありません。
男女共同参画に触れる良い機会になりました。
男女共同参画自体が女性が男性の下だという認識のもとでやっていることを強く感じました。男女が対決するのではなくて同等な存在として認識すべきだと思います。
同じ土俵に立てる人を増やすべきだと思う。
教育の過程で男女の差別化が図られている。特に制服で明らかな男女というものが出てきてしまっている。だからこれをやめたほうがいい。
民間でも広がれば良いと思った。
授業の関係でこのような機会を設けてもらわなかったら、絶対男女共同参画について考えることはなかった。もっと多くの若者、学生に機会を与えてもらって、このことについて考えてほしいと思った。

(4) パネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活」 パネリスト発表資料

① 末松 則子 鈴鹿市長発表資料



審議会等への女性委員登用率



総職員数 { 男性 906人 (64%)
1,421人 { 女性 515人 (36%)

●女性管理職の登用状況

役職	人数 (女性/全体)	女性の割合
部長級	1/15人	6.7%
次長・参事級	4/48人	8.3%
課長級	40/242人	16.5%
全体	45/305人	14.8%

●女性管理職 登用率推移

年度	人数	割合
24年度	39人	13.1%
25年度	44人	14.6%
26年度	45人	14.8%

主管課長12人のうち4人に女性を起用



最終政策決定機関・行政経営会議に参画



市の施策へ女性の考えを活かす

村木厚子さんの言葉

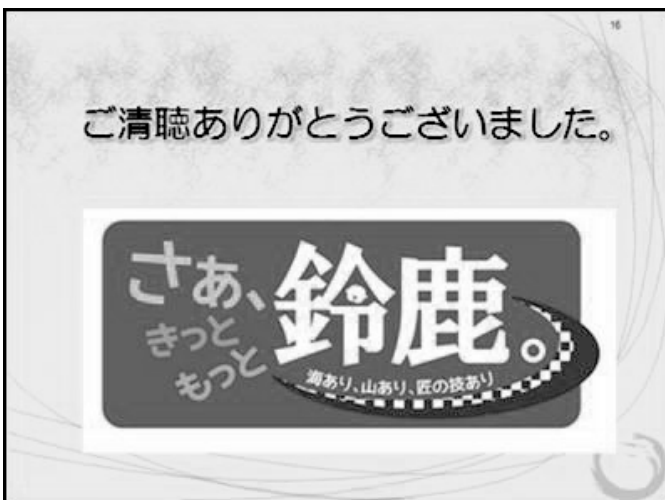
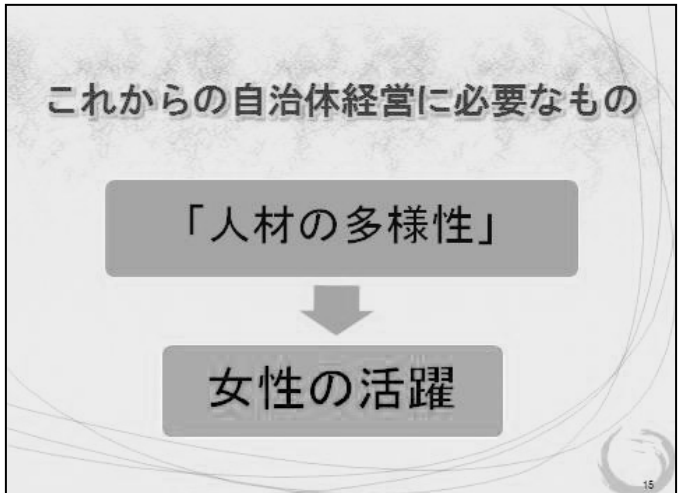


村木厚子さんの言葉



自分自身の
やりがいを選んで
チャレンジ
してほしい。

昨年5月に
「内閣府男女共同参画会議
監視専門調査会専門委員」
に就任しました。



参加者との意見交換・質疑応答

②西岡 慶子(株)光機械製作所代表取締役社長発表資料



匠ピンテージ工房



匠の技「きさげ」



キツグとは、無加工だけでは得られない高い精度の平直を、のみのような道具を使い、手作業で作ります。高度な工作機械を製造するために必要になります。

目指すべき企業像

「なるほど!」と言われる技術とアイデアと感性で、世界の市場に優れた(美しい)製品とサービスを提供する。そして、それを通じて、

- 1) 社員の幸せ、
- 2) お客様のよこび、
- 3) 社会への貢献、を実現する。

人財に関する考え方

基本理念: Be professional!
プロ意識に徹する



●人財活用

3G ダイバーシティ
世代、性別、グローバル

●人財教育

「経営塾」と「ものづくり道場」



男女共同参画

- 男女比 10%→30%
- 生産管理業務 5人/8人 * 最高益
- 文理融合と女性の視点で機械を設計
- 育児休暇後の復帰支援
- きづき隊



旧型



新型

表彰

- 2004年 モノづくりブランドNAGOYA (名古屋商工会議所)
- 2007年 明日の日本を支える元気なものの作り中小企業300社 (経済産業省)
- 2009年 男女がいまいき働いている企業 選考委員会奨励賞 (三重県)
優良会員企業 環境改善分野 (津商工会議所)
- 2011年 均等推進企業部門 三重労働局長優良賞
(厚生労働省 三重労働局)
- 2012年 キャリア支援 会長奨励賞 (中央職業能力開発協会)
- 2013年 若者応援企業宣言 三重県第一号 (三重労働局)
- 2014年 日本生産性本部 エンパワーメント大賞 奨励賞 (全国5社)
ダイバーシティ100選 経済産業大臣表彰 (全国46社)

③江崎 貴久 (有)オズ「海島遊民くらぶ」代表取締役発表資料

※

江崎貴久の2つの仕事

見た目には、全く違う仕事・・・
でも、実は、同じことをしています。



旅館海月 女将



海島遊民くらぶ
エコツアーガイド

鳥羽の魅力・伊勢志摩の魅力を
伝えることで人を幸せにする仕事です!!

※

観光とは？

国の光を観る

観光立国推進基本法

「観光は、国際平和と国民生活の安定を象徴するものであって、その持続的な発展は、恒久の平和と国際社会の相互理解の増進を念願し、健康で文化的な生活を享受しようとする我々の理想とするところである。」

光とは？

「らしさ」と「ならでは」



私たちの好きなもの

地元の人々 地元食材 地元の自然

みんなに知ってほしい！

ずっとあり続けてほしい

商品づくり

地域貢献

海島遊民くらぶの活動



海島遊民くらぶのツアー



海藻の森
シースルーカヤックツアー



海藻の森シュノーケルツアー



無人島たんけんツアー



つりざお片手に
路地裏お散歩ツアー



伊勢海老お料理大学



ワカメ料理と
採れたてワカメしゃぶしゃぶ
ランチツアー

海島遊民くらぶのツアー



星空を足元に♪
クリアカヤックナイトツアー



海ほたると
4億年のタイムスリップ!!



ほたる＆海ほたる観賞と
ワインを楽しむツアー



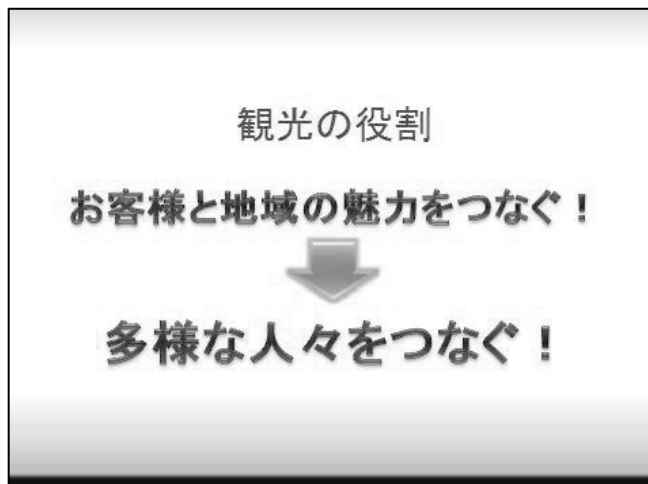
ココロ旅～自分を見つめる
カラーカウンセリングと
石神さん参り～



鳥羽の台所
つまみ食いウォーキング



森と海は恋人ツアー



だんだん、お母さん達も・・・



25



観光が地元民とお客様をつなぐ これが、いい旅のコツ!!

【地元民にとって】

地域の自然や人々を
大切にしてくれる人

地域や人々を
踏みしめる人

→

「いい人」
「大切な人」

「嫌な人」
「来てほしくない人」

観光事業者の腕！
気配り・心遣いは
うまくつながる

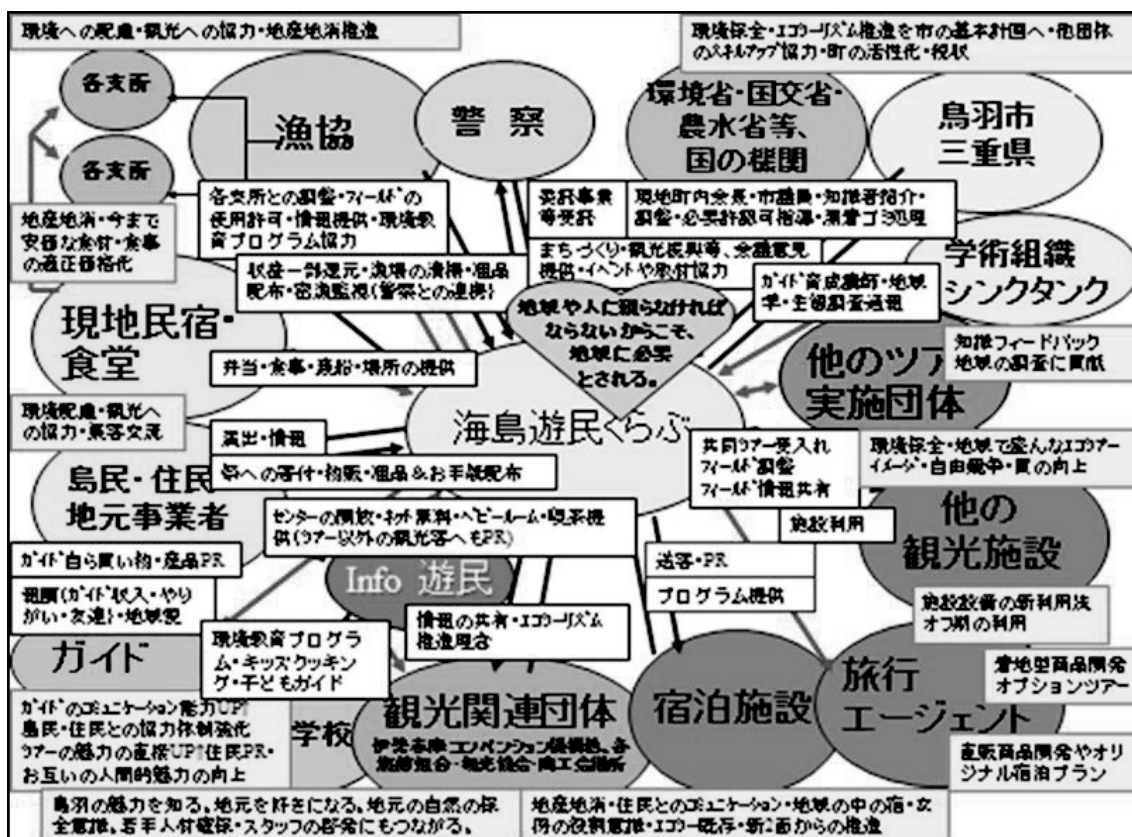
【お客さまにとって】

お客様を
大切にしてくれる人

お客様を
ないがしろにする人

「いい人」
「大切な人」

「嫌な人」
「一緒にいたくない人」



1. 自己紹介①(プロフィール)

- 1972年生まれ。関東出身。2004年三重大学着任。
- 既婚。子供2人(男9歳(小4), 女7歳(小2))。
- 長女出生時に6週間の休暇(手続き上は育休ではなく、夏季休暇・出産休暇・年休の組み合わせ)。
- 農業経営学が専門のため、農業・農村の現場に出かけることも多い。“出張”は年間100回。
- 妻は三重大学非常勤講師+自営(経営コンサルティング業)。
- “爺婆ホテル”が近隣にないので、もっぱら夫婦二人で育児。



(2012年10月撮影)

1. 自己紹介②(業務面)

- 教育
 - 担当授業: 10科目(フル担当)
 - 「簿記会計演習1」「簿記会計演習2」「Science English 1」で教育表彰(2011, 2012)
 - 研究指導: 博士1名、修士2名、卒論生5名
- 研究
 - 研究プロジェクト: 国・民間合わせ5本(+1本申請中)
 - 研究業績: 2013年の査読論文6本(その他8本)
- 社会貢献
 - 講演: 毎年10本/年
 - 委員委嘱: 現在16本
- 学内運営
 - 部局: 入試広報(オープンキャンパス), 国際交流
 - 全学: 男女共同参画専門委員会
- その他
 - 趣味: ジョギング(120キロ/月)

2. 日常生活(夫婦間の分担)

日	月	火	水	木	金	土
15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
(夫)東京 (3人)ボー イスカウト	(夫)通常 (妻)東京	(夫)通常 (妻)東京 (妻)新湯 泊	(夫)通常 (妻)新湯 泊	(夫)通常 (妻)東京 泊	(夫)通常 バトロール →通常(塾 送迎)	(全員)水 泳教室 (妻ジム)
22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
(夫)県内	(夫)通常 (妻)大阪	(夫)通常 (妻)在宅 (妻)在宅 (妻)在宅	(夫)通常 (妻)在宅	(夫)通常 (妻)東京	(夫)錦鹿 市 (妻)在宅	(全員)水 泳教室 (妻ジム) →(夫)FJ フォーラム

子育てエピソード: 6週間「育休」

- 長女が生まれた2006年8月～9月にかけて6週間の休暇取得。
- 育休ではなく、夏季休暇+出産付き添い休暇+年休の組み合わせ
 - 「育休を取ると、ボーナスが10数万円減る」
- 最初は「たらい回し」にされる
 - 「雇用保険での手続きになる」
 - 「奥様が働いていなければ育休は取れない」など

3. WLBについて思う(1): 仕事面①

- WLB= 時間生産性を上げる。
 - のんびんだらりと働く“ワーク・ワーク”人間よりも、より短い時間で“絶対的”に高い成果を上げ、残りの時間は仕事以外(生活・趣味)に当てる。
 - 「時間が限られているわりには頑張っている」ではなく、「時間が限られているのに、圧倒的な成果を上げる」。
 - WLBを何かの「言い訳」にしてしまったら、次の世代にWLBが受け継がれない。
 - 仕事ばかりしていたら飽きる。生産性が下がる。
- WLBとは、単なるマイホームパパではない。

WLB: 自分が恵まれている点

- 裁量労働制: 自己裁量の範囲が広い。
- 三重大着任時の上司の理解と支援
 - 頭での理解だけでなく、経験からの理解と助言(「自分はきちんとできなかったから...」)。
- 妻が“自営”。
- 毎年9月は自分が海外調査+学生実習+学会でほとんどいないが、合わせてもらっている。
 - 今年: 9/8-11学生実習→18-20学会(東京)→22-10/1英国
- 若手男性教員には、配偶者の社会参画に向けて、子育て等に積極的な人も多い。
 - 実は大学教員ができる重要な男女共同参画の1つだが、大学における男女共同参画活動にはカウントされていない(大学ではなく家庭の話なので)。

3.WLBについて思う(2): 家庭・生活①

- 健康第一
 - 仕事と家事育児の両立は、やる気の問題。
 - できるかできないか以前に、その気がないのが問題。
 - 健康維持(体力強化)も加えると難易度が上がる。
- 育児の楽しみ
 - 子供と共に学ぶ楽しさ。
 - スポーツ観戦、自転車、海水浴・プール、遊園地・動物園・水族館...
 - 一方で、育児のストレスは過大
 - ママが一人になる時間を確保することが大事。
 - たとえ「子供が3歳になるまでは」と決意しての“専業主婦”だったとしても。

3.WLBについて思う(2): 家庭・生活②

- 男性の育児参加とは？
 - 育児の労力だけでなく、育児の“主導権”を分担すること。
 - “イクメン”の裏に感じる疑義=「大変なので手伝ってもらおう」が、「主導権は渡さない」？
 - 「仕事か家庭か」ではなく、「仕事も家庭も」。
 - 自分のWLB+ 配偶者のWLB
- 時代は確実に変わっている。
 - 「自分の時は、そんなことまでしなかった」と言い放つ上司(その意識の低さ)



三重大大学「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の紹介



参加者との意見交換・質疑応答

Ⅱ 男女共同参画推進専門委員会の活動

平成26年度 三重大学男女共同参画推進専門委員会

回	日	事項
1	5月12日(月)	○ 「ファザーリング全国フォーラムinみえ」について ○ 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」との連携について ○ 平成26年度前期共通教育授業「男女共同参画基礎」について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会活動報告書2013」及び「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の刊行について ○ 教育学部男女共同参画推進委員会報告書について
2	7月16日(水)	○ 平成26年度後期共通教育授業「男女共同参画実践」について ○ 「ファザーリング全国フォーラムinみえ」について ○ 「三重男女共同参画協議会(仮称)」について ○ 「みえ女性活躍推進連携会議」について ○ 国立大学協会「男女共同参画小委員会」について
3	9月24日(水)	○ 平成26年度後期共通教育授業「男女共同参画実践」について ○ 国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査(第11回)結果について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会活動報告書2014」について ○ 「M祭! 2014キッズ・アート・フェスティバル」の実施結果について ○ オープンキャンパスの実施結果について ○ 尾鷲市男女共同参画審議会会長について ○ 三重大学男女共同参画推進専門委員会委員の交代について
4	1月20日(火)	○ 「三重男女共同参画協議会(仮称)」について ○ 平成27年度教養教育授業計画について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書 2014」について ○ 「大学等における男女共同参画推進セミナー」について ○ 国立大学協会「男女共同参画小委員会」について
5	3月11日(水)	○ 平成27年度男女共同参画推進専門委員会委員等について ○ 平成27年度前期「男女共同参画基礎」授業日程について ○ 三重県男女共同参画審議会委員について ○ 伊賀市男女共同参画審議会会長について ○ 「みえ女性活躍支援推進連携会議」について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2014」について



三重大学男女共同参画推進専門委員会

Ⅲ 共通教育授業

1. 「男女共同参画 基礎」(前期, 統合教育科目, 総合科目)

2014(平成26)年度共通教育前期授業「男女共同参画基礎」を開講しました。この授業はオムニバス方式で、本学男女共同参画推進専門委員会委員および非常勤講師が担当しました。

男女共同参画を担当する朴 恵淑 理事・副学長による講義及び男女共同参画推進室の見学をはじめとして、計15回の講義が行われ、さらに、特別授業として文部科学省主催のワールド・カフェ「100人男子会×女子会(だんじょかい)」(5頁参照)に参加しました。

第1回講義および男女共同参画推進室見学
朴 恵淑理事・副学長(男女共同参画担当)



第2回講義 江成 幸委員



第3回講義 小林 正委員



第4回,第5回講義 佐伯 富樹
三重大学名誉教授(三重県男女共同参画審議会会長)



第6回講義 小川 真里子
三重大学名誉教授



第7回講義 伊藤 久美子
三重県立斎宮博物館長(前三重県環境生活部次長)



第8回講義 常 清秀委員



第9回講義 江藤 由美委員



第10回講義 江藤 みちる委員



第11回講義 重松 良祐委員



第12回講義 森脇 由美子委員



第13回講義 西岡 慶子
(株)光機械製作所 代表取締役社長



第14回講義 井関 敦子委員



第15回講義 内山 智裕委員



特別授業 文部科学省主催
ワールド・カフェ
「100人男子会×女子会」



2.「男女共同参画 実践」(後期, 統合教育科目, 総合科目)

2014(平成26)年度共通教育後期授業「男女共同参画実践」を開講しました。この授業は、本学、自治体、企業及び市民グループ等が行う男女共同参画推進活動について学び、見学や実践等を通じて、学生が地域社会等に関わることの意義及び活動のノウハウを学ぶものです。

今年度は、三重大学男女共同参画推進専門委員会委員等によるオムニバス方式の講義とともに、「三重県男女共同参画フォーラム～三重の男女(ひと)2014～」及び「津市男女共同参画フォーラムわあむ津」に参加し、2015(平成27)年2月16日に開催された「三重大学アカデミックフェア2015」において、学生たちが授業の成果と課題を発表しました。

第1回講義 朴 恵淑理事・副学長



第1回男女共同参画室見学 朴 恵淑理事・副学長, 小川眞里子 名誉教授



第2回講義 江藤みちる委員



第3回講義 小川眞里子 名誉教授



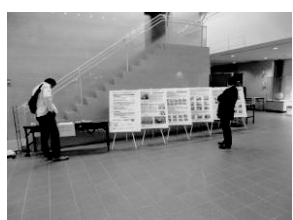
第4回講義 森脇由美子委員



第5回講義 重松良祐委員



第6,7回特別授業 三重県男女共同参画フォーラム～三重の男女(ひと)2014～



第8回講義 常 清秀委員



第9回講義 内山智裕委員



第10,11回特別授業 津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」



第12回講義 小林 正委員



第13回講義 宇野 貴浩委員



第14回講義 長濱文与委員



第15回、16回特別授業 三重大学アカデミックフェア
内田 淳正学長挨拶



第15回、16回三重大学アカデミックフェア
受講学生による発表



1. 男女共同参画基礎(前期)

開講年度	2014 年度
開講区分	共通教育・統合教育科目
受講対象学生	学部(学士課程): 1 年次, 2 年次, 3 年次, 4 年次, 5 年次, 6 年次
選択・必修	
授業科目名	男女共同参画基礎
	だんじょきょうどうさんかくきそ
	Promotion of Gender Equality: primer
単位数	2 単位
教育科目種別	総合科目
分野	人文
理解領域	国際・現代
開放科目	非開放科目
市民開放授業	市民開放授業ではない
開講学期	前期
開講時間	金曜日 5, 6 時限
開講場所	共通教育 419 教室
担当教員	# 朴 恵淑, 森脇 由美子, 江成 幸, 重松 良祐, 江藤 みちる, 井関 敦子, 江藤 由美, 小林 正, 常 清秀, 内山 智裕, 長濱 文与, 小川 眞里子, ○佐伯 富樹, ○西岡 慶子, ○伊藤 久美子
	park@human.mie-u.ac.jp
TA の情報	男女共同参画の学内外現況分析や手法等を検討する授業補助のため

学習の目的と方法

授業の概要	授業を前半基礎編・後半実践編として, 男女共同参画について多方面から考え, 活動できるよう, 本学教員, 非常勤講師を交えて授業を行い, 男女共同参画社会の持続的発展を目指す。
学習の目的	男女共同参画社会の実現はどうあるべきかを考えさせ, 三重大学が男女共同参画のモデルとなるよう, 意識向上を図ることを目的とする。

学習の到達目標	三重大学は、三重県が制定している「男女が生き生きと働いている企業」の認証を大学として初めて取得し、また三重県知事「グッドプラクティス賞」を受賞するなど高く評価されており、男女共同参画の全国的なモデルとなるよう発展させていく方針である。三重大学が男女共同参画社会のモデルとなるよう、本講義を通して、男女が共に生き生きと活躍できる男女共同参画社会のあり方について社会の多分野からの知識やノウハウを修得させ、人材を育成する。
ディプロマ・ポリシー	○ 全学の教育目標 感じる力 ○感性 ○共感 ○倫理観 ○モチベーション 主体的学習力 心身の健康に対する意識 考える力 ○幅広い教養 専門知識・技術 論理的思考力 ○課題探求力 ○問題解決力 批判的思考力 コミュニケーション力 ○情報受発信力 ○討論・対話力 指導力・協調性 ○社会人としての態度 実践外国語力 生きる力 ○感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力
授業の方法	講義
授業の特徴	能動的要素を加えた授業 キャリア教育の要素を加えた授業
教科書	講義のはじめにテキストや参考書について提示する。
参考書	講義のはじめにテキストや参考書について提示する。
成績評価方法と基準	出席20%, レポート2回(80%)
オフィスアワー	本科目の取りまとめ役の教員(朴 恵淑)の連絡については月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで可。それぞれの講師については三重大学男女共同参画推進室へ月曜日～金曜日の午前9時～午後4時まで可。
受講要件	特にありません。
発展科目	男女共同参画実践

授業計画

キーワード	
-------	--

学習内容	第 1 回 朴 恵淑 「日本, 三重大大学の男女共同参画の現状と課題」
	第 2 回 江成 幸 「男女共同参画社会」
	第 3 回 小林 正 「会社で働くということ」
	第 4 回 佐伯 富樹 「女子差別撤廃条約をめぐる問題について」
	第 5 回 佐伯 富樹 「三重県の男女共同参画の現状と課題」
	第 6 回 小川 眞里子 「なぜ今理系分野の男女共同参画か」
	第 7 回 伊藤 久美子 「三重県男女共同参画基本計画について」
	第 8 回 内山 智裕 「農村漁村における男女共同参画」
	第 9 回 江藤 由美 「大学病院における男女共同参画の推進」
	第 10 回 江藤 みちる 「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」
	第 11 回 重松 良祐 「スポーツと男女共同参画」
	第 12 回 森脇 由美子 「連携・協働で進める男女共同参画」
	第 13 回 西岡 慶子 「企業の男女共同参画への取組」
	第 14 回 井關 敦子 「看護学科と男女共同参画について」
	第 15 回 常 清秀 「アジア(中国)の男女共同参画の現状と課題」
	第 16 回 朴 恵淑 「総括」
学習課題 (予習・復習)	

2. 男女共同参画実践(後期)

開講年度	2014 年度
開講区分	共通教育・統合教育科目
受講対象学生	学部(学士課程): 1 年次, 2 年次, 3 年次, 4 年次
選択・必修	選択
授業科目名	男女共同参画実践
	だんじょきょうどうさんかくじっせん
	Promotion of Gender Equality: practice
単位数	2 単位
教育科目種別	通常科目
分野	人文
理解領域	キャリア
開放科目	非開放科目

市民開放授業	市民開放授業ではない
開講学期	後期
開講時間	金曜日 7, 8 時限
開講場所	共通教育 101 教室
担当教員	# 朴 恵淑, 森脇 由美子, 江成 幸, 重松 良祐, 江藤 みちる, 井關 敦子, 小川 朋子, 門脇 文子, 小林 正, 宇野 貴浩, 常 清秀, 内山 智裕, 長濱 文与, 小川 眞里子 park@human.mie-u.ac.jp
TA の情報	男女共同参画の学内外現況分析や手法等を検討する授業補助のため

学習の目的と方法

授業の概要	本学, 自治体, 企業, 市民グループ等が行う男女共同参画について学び, 見学や実践等を通じて, 学生が地域社会等に関わることの意義及びノウハウを学ぶ。
学習の目的	情報発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人として態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力を培う。
学習の到達目標	男女共同参画の視点に立ち, 能動的要素やキャリア教育の要素を加えた授業を通して, 社会の多分野の関係者との対話や実践活動交流を行い, コミュニケーション力, 対話力, 実践力, 調整力を向上させる。
ディプロマ・ポリシー	○ 全学の教育目標 感じる力 感性 共感 倫理観 ○モチベーション ○主体的学習力 ○心身の健康に対する意識 考える力 ○幅広い教養 専門知識・技術 論理的思考力 ○課題探求力 ○問題解決力 批判的思考力 コミュニケーション力 ○情報受発信力 ○討論・対話力 ○指導力・協調性 ○社会人としての態度 実践外国語力 生きる力 ○感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力
授業の方法	講義 演習

授業の特徴	能動的要素を加えた授業 グループ学習の要素を加えた授業 キャリア教育の要素を加えた授業
教科書	適宜提示する。
参考書	適宜提示する。
成績評価方法と基準	授業，調査への参加と発表内容，レポート等を総合的に算定
オフィスアワー	本科目の取りまとめ役の教授(朴 恵淑)の連絡については月曜日～金曜日の午前9時～午後5時まで可。それぞれの講師については三重大学男女共同参画推進室へ月曜日～金曜日の午前9時～午後4時まで可。
受講要件	特に定めていない。本学のオープンキャンパスや，県・市の主催する男女共同参画イベント，フォーラム等に参加することが望ましい。
予め履修が望ましい科目	特に定めていないが，前期の男女共同参画基礎の受講が望ましい。

授業計画

キーワード	男女共同参画実践
学習内容	第1回～第5回 男女共同参画の視点に立ち，学内外の現況分析や手法を検討する。 第6回～第11回 男女共同参画推進専門委員会指導の下に，フィールドワーク活動を行う。 (関係団体等と連携し，発表や調査等の活動を行う。) 第12回～第16回 報告会の準備(課題を明らかにし，提言等を行う)及び報告会。 ※休日や講義のない日などを利用して男女共同参画イベントやフォーラム等に参加することがあります。 現地調査や活動等に意欲ある学生の受講を期待します。
学習課題 (予習・復習)	

IV 部局の取組み

1. 教育学部男女共同参画推進委員会

教育学部男女共同参画推進委員会は、2012(平成25)年11月に教育学部及び大学院教育学研究科の学生を対象に「男女共同参画に関する調査」を実施し、2014年3月に調査結果を取りまとめ報告書を作成しました。

2013 年度

三重大学教育学部男女共同参画推進委員会報告書

「男女共同参画に関する調査」のまとめ



2014 年 3 月刊

三重大学教育学部男女共同参画推進委員会

2013 年度三重大学教育学部
男女共同参画推進委員会報告書（リーフレット）

1. はじめに

教員養成を基本とする教育学部では、構成員全員が男女共同参画社会を認識・理解することが非常に重要であると考えている。そのため、性別にかかわらず個人がその個性と能力を十分発揮できるような、教育環境や組織を確立することを目指している。そこで、教育学部に所属する学生の意識・知識・要望を確かめるべく、調査を行うこととした。

2. 調査方法

教育学部の学部生および
大学院生を対象に、
2012年11月、アンケート用紙を
配布・回収した。
405件の有効サンプルを得た。

調査票配布数	980 件
回収数	407件
回収率	40.5%
無効票	2件
有効サンプル数	405件

3. 明らかになったこと

①認識率

法律等は認識されているが、
三重大学での授業は認識されていない。

法律等

「男女共同参画社会基本法」
「男女雇用機会均等法」
「育児・介護休業法」

学生 約9割
知っている

三重大学での授業

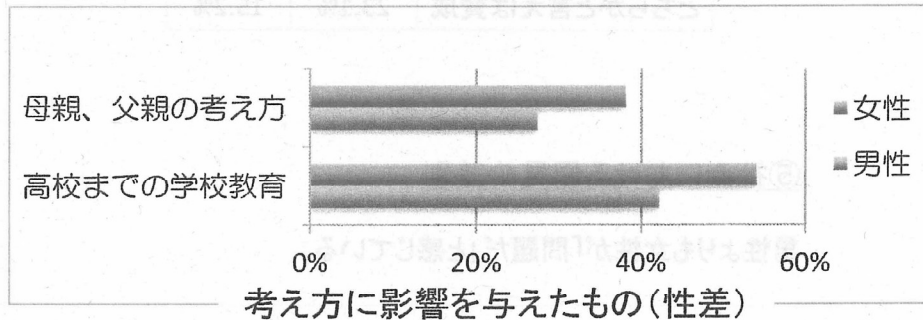
「ライフ・プランニングと社会参画」
「啓発イベント実践」

学生 約9割
知らない

②影響されているのは女性

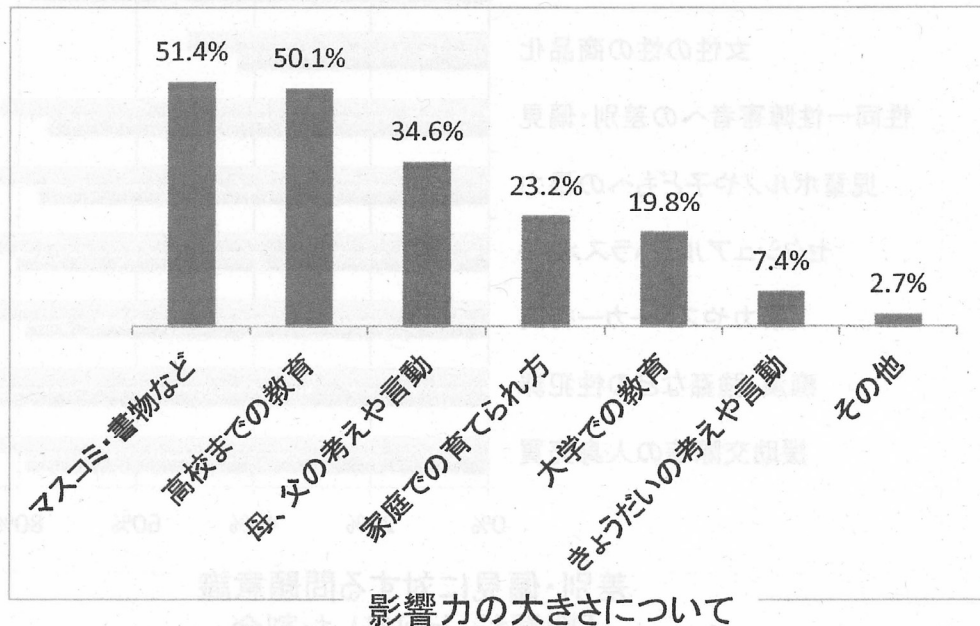
女性の方が認識が高く、進路決定に際しても男女共同参画を意識している。

「母親または父親の考え方」「高校までの学校における教育」に影響されていると回答した女性が有意に多かった。



③高校までの教育とマスコミの影響力

男女共同参画の考え方に影響を与えたものは、男女ともにマスコミや高校までの教育である。大学での教育はあまり影響していない。



④男女役割論を肯定している人

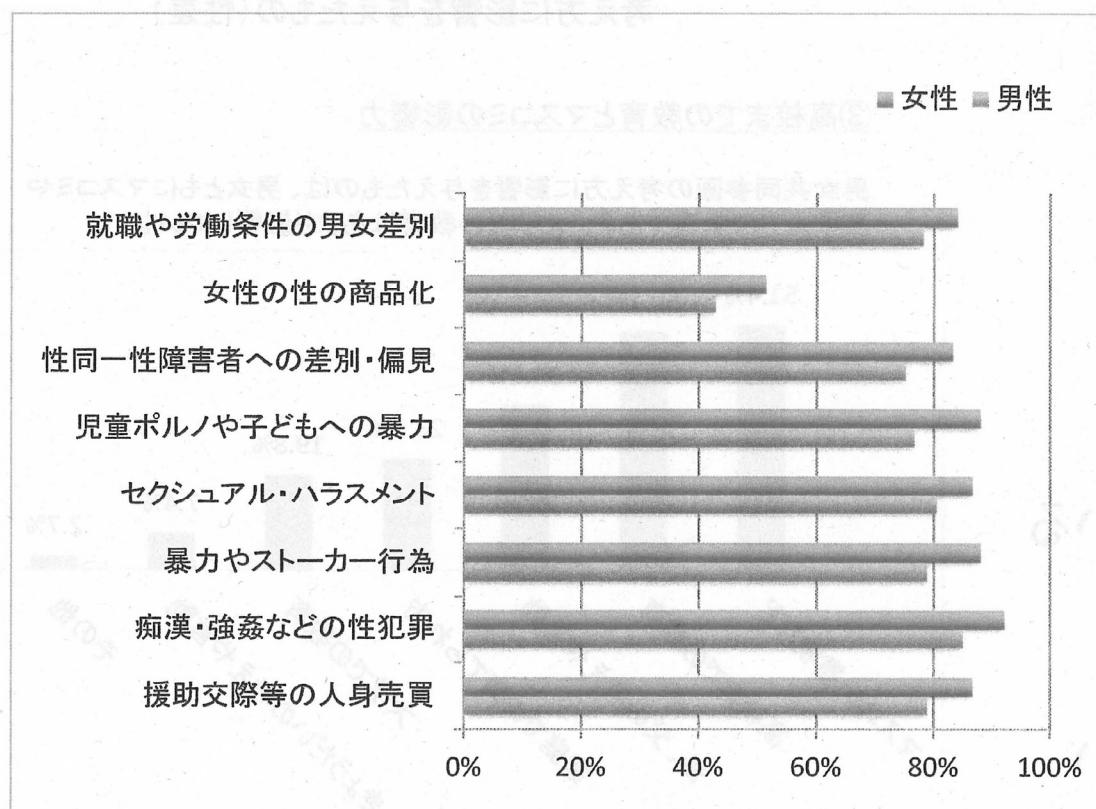
男性が女性の倍近い割合で肯定している。

夫は外、妻は家庭という考え方に・・・

	男性	女性
賛成	6.7%	0.4%
どちらかと言えば賛成	23.1%	15.2%

⑤社会における偏見や差別

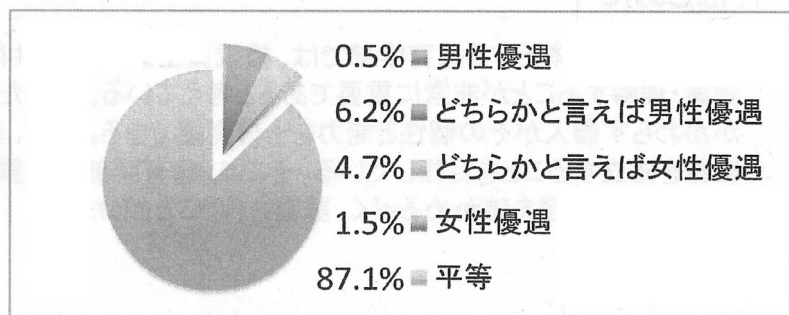
男性よりも女性が「問題だ」と感じている。



差別・偏見に対する問題意識
「問題だ」と回答した割合

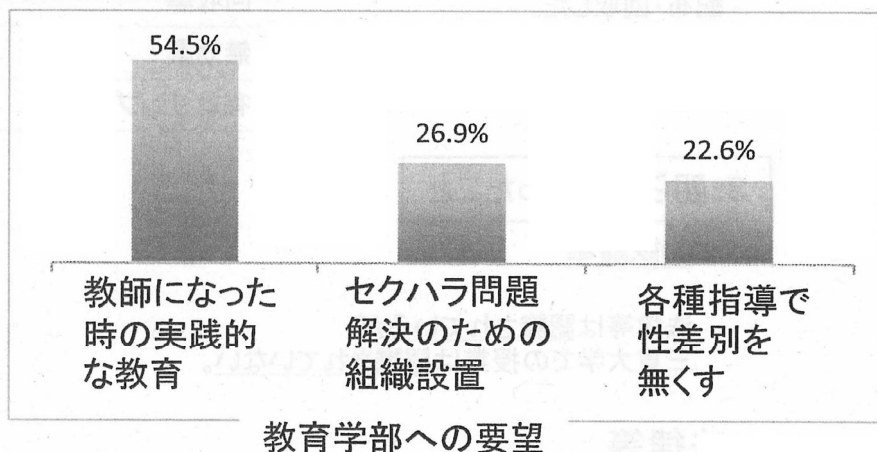
⑥大学での教育において

男女共同参画の視点から問題があるとする学生は1割程度と少ない。



大学での教育における男女平等意識について

⑦教育学部への要望



4. 終わりに

今後の課題

- 三重大で開講されている授業を周知していく。
- 男女役割論を肯定している者の比率を下げる。
- 教育学部への要望に応える。

発行：三重大学教育学部男女共同参画推進委員会(2013年度)

2. 工学部男女共同参画推進委員会

本年度、工学部男女共同参画推進委員会は下記のとおり活動しました。

(1) 女子学生数増に対する取組み

① 進学説明会

工学部の進学説明会に、学部または大学院の女子学生が同行し、工学部の雰囲気、授業や研究、進路のことについて、自らの経験をふまえて紹介しました。

行き先は、セントヨゼフ高校ほか東海3県の5高校を訪問しました。

② 三重大学オープンキャンパス

2014(平成26)8月7日(木)、三重大学オープンキャンパスが開催され、講堂小ホールにおいて、「女子学生による進路相談コーナー及び理系女性支援の紹介」を行いました。

女子学生による進路相談コーナーでは、工学部進学を考えている女子高校生を対象に、工学部出身の女子大学院生が、工学部の雰囲気、授業や研究、進路のことについて、自らの経験をふまえてお答えしました。相談者数は26名で、予定時間を大幅に超過して、熱心に相談していました。

③ 鈴鹿工業高等専門学校 合同大学説明会

2014(平成26)年11月12日(水)、進学(編入)を希望する4年生を対象にした説明会に出席し、男女共同参画推進専門委員会から、女子学生に大学への進学をPRしました。

(2) 女性教員数増に対する取り組み

研究科長及び工学部男女共同参画推進委員会は、工学研究科の女性教員数の増加を図るため女子博士課程修了生の採用方法について検討しています。



3. 生物資源学部USR委員会

2014(平成26)年8月8日(金)、生物資源学部オープンキャンパスにおいて、「生物資源LINEブース」を開設しました。

このブースは、生物資源学部の国際的、地域的につながっている「LINE」活動を紹介するもので、男女共同参画への取組や女子学生による研究紹介、地域の連携研究機関紹介および国際交流活動紹介が行われ、多くの高校生がブースを訪れて、各担当者の説明に耳を傾けていました。



V 地域との連携

1. 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

三重大学男女共同参画推進専門委員会は、三重地域の男女共同参画のさらなる推進のため、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」と連携して各種事業を実施しています。

「フレンテみえ」は、男女共同参画社会推進のため人材の育成、情報の受発信を行い、また、男女共同参画を推進する人たちの活動や交流の拠点となっています。

(1)「フレンテまつり」

2014(平成26)年6月7日(土)、8日(日)の両日、三重県総合文化センター内の三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」で開催された「フレンテまつり」に参加しました。

この催しは、「フレンテみえ」に登録している男女共同参画を推進するさまざまな団体による舞台発表、活動展示およびフリーマーケットなどを通じて、楽しく男女共同を発信するものです。

三重大学は、フレンテみえの関係機関として参加し、三重大学の活動を紹介するパネル展示や「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の紹介などを行いました。



三重大学男女共同参画推進活動紹介パネル展示

(2)「M祭！2014 キッズ・アート・フェスティバル」

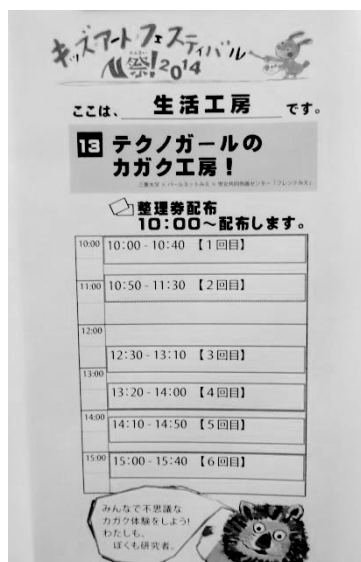
2014(平成26)年8月3日(日)、三重県総合文化センターで開催された「M祭！2014 キッズ・アート・フェスティバル」に参加し、三重大学は女性研究者連携協議会(パールネットみえ)及び「フレンテみえ」と連携して「テクノガールのカガク工房」を開催しました。

今年のテーマは、「カライドサイクルづくり」と「自分色のオリジナルクレヨンづくり」。

「カライドサイクルづくり」は、三重大学大学院工学研究科の教員、学生及びパールネットみえの女性研究者の指導により、最初に予め準備した図柄のカライドサイクルを作り、次に白紙の用紙に自分の好きな図柄を描いて作りました。

「自分色のオリジナルクレヨンづくり」は、三重大学教育学部の学生の指導により、庭園で採取した草や木の実、葉、枝等をクレヨン代わりにして画用紙に貼り付け、自由に絵を描きました。

この日は6回の開催で200人を超える子どもたちが参加し、付添いの方々と共にものづくりを楽しみました。



「テクノガールのカガク工房」



カライドサイクルづくり



庭園でオリジナルクレヨンの材料探し



自分色のオリジナルクレヨンで絵を描く



指導に当たったテクノガール&ボーイ

2. 「女性の大活躍推進三重県会議」

2014(平成26)年11月9日(日)フレンテみえで開催された「女性の大活躍三重県会議」のキックオフ大会に三重大学の男女共同参画を担当する 朴 恵淑 理事・副学長が参加しました。

この会議は、三重県が、県内における女性の活躍推進の機運を醸成し、より多くの企業・団体等が共に取組を進めていけるように設置したものです。

三重大学は、この会議の創設を支援するために設置された県内経済団体等で構成する「みえ女性活躍推進連携会議」に参加し、協力してきました。

「女性の大活躍推進三重県会議」には、三重大学は、会員として参加し、取組について自主宣言を行うとともに、学長が顧問に就任しました。

今後、会員企業・団体等と共に三重地域の女性の活躍を推進し、男女共同参画社会の実現に向けて積極的に活動していきます。

キックオフ大会では、三重県知事等の挨拶、対談「女性の活躍と男性の活躍、それが企業力」などに続いて知事及び会員企業・団体代表者によるキックオフ宣言が行われました。

三重大学自主宣言

- 1.男女共同参画の視点に立った教育・研究組織の確立をめざす。
- 2.男女共同参画の視点から制度や慣行を見直し、改善する。
- 3.仕事と個人生活とのバランスに配慮し、男女共同参画の観点から必要な支援を行う。
- 4.学生・教職員に対して、男女共同参画に関する啓発活動を行う。
- 5.男女共同参画を推進する地域の組織や自治体との協調・連携を推進する。



「みえ女性活躍推進連携会議」



「女性の大活躍三重県会議」キックオフ大会
三重県知事挨拶



知事対談



キックオフ宣言

「女性の大活躍推進三重県会議」
キックオフ宣言

私たちは
自らの組織において女性が持てる力を存分に発揮し
活躍できるよう率先して取り組み
女性が輝く三重をめざして踏み出すことを宣言します。

平成26年11月9日



知事及び会員企業・団体等の代表者

VI 国立大学協会の取組み

1. 国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会報告

報告者:三重大学男女共同参画推進専門委員会委員

医学系研究科 助教 江藤 みちる

1) 平成26年度第1回 日時:平成26年7月2日(水) 学術総合センター

① 平成26年度の活動計画について

ア 「国立大学における男女共同参画推進について—アクションプラン—」の目標達成に向けた検討を行う。

イ 第11回追跡調査を行い、会員大学等へ情報提供、公表方法等について検討を行う。

ウ 文科省はじめ関係省庁が行う男女共同参画に関する各種調査等について対応する。

国立大学における男女共同参画推進について—アクションプラン—(抜粋)

「国立大学の女性教員比率を20%以上に引き上げることを目指しつつ、少なくとも2015年までに17%以上(各大学において1年ごとに1%以上)に引き上げることを達成目標として設定することが適切であると思われる。」

② 国立女性教育会館(NWEC)との意見交換

NWECは「大学等における男女共同参画に関する調査研究」として、国公立大学へヒアリング調査を実施し、結果をもとに、女性研究者支援を含む男女共同参画の促進のためのガイドブック「大学と男女共同参画(仮題)」を作成中(刊行予定:平成27年2月)。各大学には学長と男女共同参画室へ配布予定。

読み手:国公立の大学教職員

第一部:広く上層部(役員等)やテーマに関心のない人を含む教職員

第二部:学内で女性研究者支援・男女共同参画推進に携わる教職員、人事総務、担当部局職員、制度を利用する(したい)教職員

③ 「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する第11回追跡調査」について

今年度はスケジュールを繰上げ、各大学への調査依頼を夏休み前に行う予定である。

女性の積極的採用を行いたくとも、女性の応募がなければ採用できない。実態が不明であることから、新規採用時の応募者数・採用者数の部局別男女内訳について調査を行いたい旨の発言があった。

今年度については、まずは小委員会の所属大学で予備調査することとなった。

④ その他

ア 「輝く女性応援会議」2014年3月28日@首相官邸, 国大協・松本会長ご出席

イ 一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク発足, 国大協も参加

ウ NWECを活用した男女共同参画関係施策の充実に関する関係省庁検討会(仮称)

エ 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業(内閣府)

平成25年度は9件実施(参考資料2)。平成26年度は選考中。

申請国立大学は6件(東京医科歯科大, お茶大, 千葉大, 富山大, 熊本大, 宮崎大)。

国大協の共催は(申請前に協議の上で)可能なので、ご一報くださいとのこと。

2) 平成26年度第2回 日時:平成27年1月15日(木) 学術情報センター

① 文科省と意見交換

ア 最近の政府の動き

イ 平成27年度支援策(カッコ内は前年予算額)

・特別研究員(RPD)事業 7.6億円(6.5億円)25人分増額。男女とも可。支援後8割が研究職に復帰。

- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 10.9億円(9.8億円) 単独型・連携型。43機関(H26年度)
- ・女子中高生の理系進路選択支援プログラム 1500万円(1500万円)10機関程度(単年度採択)など

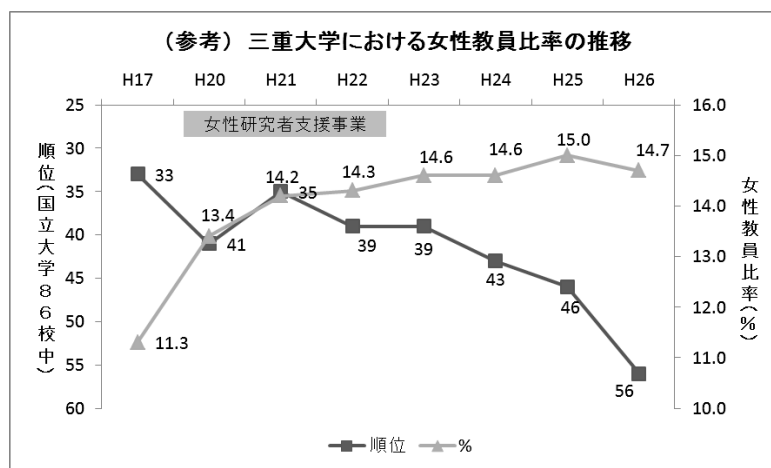
ウ 国立大学法人等における女性の登用促進について(昨夏に実態調査を実施)
独立行政法人等についてH27年度末までに女性役員・管理職の登用目標設定を行う。国立大学法人等についても自主的に促す。国立大学については役員13.6%, 管理職12.4%を全体の目標値(案)とする。

三重大大学の現状:役員12.5%, 管理職13.6%(事務系14.3%, 教育研究系9.1%, 医療系50%), その他4.5%

学長の裁量で決定できる役職(非常勤理事・監事・学長補佐等)を活用し, より上級職へのステップアップにつながるよう各大学において工夫されたい。

② 国立大学における男女共同参画の推進状況に関する第11回追跡調査結果について

全国立大学における女性教員比率は14.7%(前年比+0.6%), 大学別女性教員比率の平均は16.0%(前年比+0.5%), 女性教員比率17%以上の大学は29大学(前年比+2)となった。
大学の意思決定過程(学長, 理事, 副学長, 学長補佐)における女性比率も上昇傾向にある。
三重大大学は右図のとおり, 順位・比率とも減少した。



③ 平成25年度教員採用にかかる応募者数等の結果について

新規採用時の応募者数・採用者数の部局別男女内訳について小委員会所属10大学で予備調査を行った。

女性比率は採用者>応募者の傾向があり, 積極的に女性を採用する傾向がうかがえた。理・工の女性応募者数の低さが目立った。次回の第12回追跡調査では他大学にも同様の調査を依頼予定。

④ 平成27年度の活動計画について

- ア 「国立大学における男女共同参画推進について—アクションプラン」の最終年度を迎え, 今後の方策を検討。
- イ 第12回追跡調査を行い, 会員大学等へ情報提供, 公表方法等について検討を行う。
- ウ 文科省はじめ関係省庁が行う男女共同参画に関する各種調査等について対応する。

本委員会でまとめられた「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第11回追跡調査」については, 国立大学協会ホームページよりダウンロードが可能である。

<http://www.janu.jp/post.html>

2. 国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査結果

一般社団法人国立大学協会が実施する「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する追跡調査」第11回調査結果

三重大大学の現状(2014(平成26)年5月1日現在)

表1.1 職階別・性別 教員数

単位:人

	男	女	計	女性 比率 %	***
学長	1	0	1	0.0	
理事 *	4	1	5	20.0	
副学長 **	8	0	8	0.0	
教授	218	29	247	11.7	
准教授	172	30	202	14.9	
講師(常勤)	77	16	93	17.2	
助教	195	40	235	17.0	
小計	675	116	791	14.7	
助手	0	0	0		
計	675	116	791	14.7	

* 非常勤理事は除いてください。

* 理事が副学長を兼ねている場合は、理事の欄にのみ記入し、副学長の欄には記入しないでください。

** 理事又は副学長が教授を兼ねている場合は、理事あるいは副学長の欄にのみ記入し、教授の欄には記入しないでください。

*** 学校基本調査と同じ数値を記入し、その際、学校基本調査にない、「理事」の取り扱いに注意してください。

表1.2 大学の意思決定機関等における性別構成

単位:人

	男	女	計	女性 比率 %
学長補佐等 *	5	0	5	0.0
経営協議会, 教育研究評議会委員**	31	2	33	6.1
部局長等	17	1	18	5.6
監事 **	1	0	1	0.0
小計	54	3	57	5.3
非常勤理事	0	0	0	
大学運営に参画する外部委員等 ***	7	2	9	22.2
非常勤監事	1	0	1	0.0
小計	8	2	10	20.0
計	62	5	67	7.5

* 理事及び副学長は除いてください。

** 学外委員, 非常勤理事等は除いてください。

*** 経営協議会の学外委員等の数を記入してください。

表1.3 非常勤講師の構成

単位:人

	男		女		計		女性 比率 %
	うち 任期 付き ***		うち 任期 付き ***		うち 任期 付き ***		うち 任期 付き ***
専任教員の本務を持つ者	137	0	31	0	168	0	18.5
教員以外の本務を別に持つ者*	212	0	45	0	257	0	17.5
本務を持たない非常勤講師(60歳以上)**	90	0	16	0	106	0	15.1
本務を持たない非常勤講師(60歳未満)**	35	0	54	0	89	0	60.7
計	474	0	146	0	620	0	23.5

* 企業, 国公立研究機関, 予備校その他の機関における常勤の勤務者数を記入してください。

** 勤務先が全て非常勤の場合はここに入れてください。

*** 「うち任期付き」の欄には, 有期限の外部資金で雇用され, 雇用される期間が決められている任期付き教員数のみを記入してください。

表1.4 部局別・性別教員数

単位:人

学部・学科	教員数(本務者)													
	教 授		准教授		講師(常勤)		助 教		助 手		小 計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性 比率 %
人文学部	25	11	23	7	1	1	0	0	0	0	49	19	68	27.9
医学部(看護学科)	2	6	0	8	1	3	12	9	0	0	15	26	41	63.4
教育学部	47	6	21	6	1	5	0	0	0	0	69	17	86	19.8
教養部(一般教育)	9	1	4	1	0	0	0	0	0	0	13	2	15	13.3
大学院	133	3	101	5	28	2	80	13	0	0	342	23	365	6.3
附属病院	4	1	15	0	45	5	89	18	0	0	153	24	177	13.6
その他	6	1	8	3	1	0	14	0	0	0	29	4	33	12.1
計	226	29	172	30	77	16	195	40	0	0	670	115	785	14.6

平成26年度学校基本調査 様式第7号「学生教職員等状況表 4 教員数(本務者) Bカード」に記載した人数を記入してください。

表1.5 専攻分野別 学部・大学院の卒業(修了)者数

単位:人

専攻分野 *	学部卒業生				修士課程修了者				博士課程修了者				専門職大学院修了者			
	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %	男	女	計	女性 比率 %
人文科学	118	169	287	58.9	5	6	11	54.5	0	0	0		0	0	0	
工学	369	49	418	11.7	229	14	243	5.8	18	2	20	10.0	0	0	0	
農学(獣医学, 水産学を含む)	159	103	262	39.3	64	27	91	29.7	11	3	14	21.4	0	0	0	
保健(医歯薬学を含む)	82	121	203	59.6	7	14	21	66.7	51	13	64	20.3	0	0	0	
教育	95	127	222	57.2	19	33	52	63.5	0	0	0		0	0	0	
その他	0	0	0		8	1	9	11.1	6	1	7	14.3	0	0	0	
合 計	823	569	1392	40.9	332	95	427	22.2	86	19	105	18.1	0	0	0	

* 専攻分野の分類は, 学校基本調査に従ってください。

** 法科大学院の修了者は表右下のピンク色の欄に, その他の社会科学分野の専門職大学院の修了者については, 表の社会科学の欄にご記入ください。

表1.6 専攻分野別 学部・大学院の教員数

単位:人

専攻分野 *	教 授				准教授				講師(常勤)				助 教			
	男		女		男		女		男		女		男		女	
	うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **	
人文科学	16	0	5	0	11	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0
社会科学	9	0	6	0	12	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学	45	0	0	0	41	0	0	0	3	0	0	0	22	0	2	0
農学(獣医学, 水産学を含む)	44	0	2	0	34	0	4	0	2	0	1	0	10	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)	45	3	8	0	40	3	9	0	69	6	9	1	149	14	38	0
商船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家政	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育	45	0	6	0	21	0	6	0	1	0	5	0	0	0	0	0
芸術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	22	0	2	0	13	0	4	0	1	0	0	0	14	0	0	0
合 計	226	3	29	0	172	3	30	0	77	6	16	1	195	14	40	0

専攻分野 *	小 計						助 手			
	男		女		計		男		女	
	うち 任期 付き **		うち 任期 付き **		うち 任期 付き **	女性 比率 % うち 任期 付き **	うち 任期 付き **		うち 任期 付き **	
人文科学	28	0	11	0	39	28.2	0	0	0	0
社会科学	21	0	8	0	29	27.6	0	0	0	0
理学	0	0	0	0	0		0	0	0	0
工学	111	0	2	0	113	1.8	0	0	0	0
農学(獣医学, 水産学を含む)	90	0	7	0	97	7.2	0	0	0	0
保健(医歯薬学を含む)	303	26	64	1	367	17.4 3.7	0	0	0	0
商船	0	0	0	0	0		0	0	0	0
家政	0	0	0	0	0		0	0	0	0
教育	67	0	17	0	84	20.2	0	0	0	0
芸術	0	0	0	0	0		0	0	0	0
その他	50	0	6	0	56	10.7	0	0	0	0
合 計	670	26	115	1	785	14.6 3.7	0	0	0	0

* 専攻分野の分類は、学校基本調査に従ってください。

なお、担当する学生の分類に従って、学部・大学院の教員の合計を記入してください。

また、本務者については原則、表1.1及び1.4で記入した数と同数になるよう記入してください。

** 「うち任期付き」の欄には、有期限の外部資金等で雇用され、雇用される期間が決められている任期付き教員数のみを記入してください。

表1.7 常勤教員の採用・昇任などの異動

単位:人

任用形態	異動後の職名	男	女	計
採用・転入 *	教授	1	0	1
	准教授	9	1	10
	講師	1	2	3
	助教	22	4	26
	助手	0	0	0
	小計	33	7	40
学内昇任 **	教授	6	2	8
	准教授	11	1	12
	講師	4	1	5
	助教	0	0	0
	小計	21	4	25

平成25年度中に異動した教員数を記入してください

* 他機関からの昇任・転任を含めて記入してください。

** 学内者であっても、技官や非常勤教員等、本務教員以外からの異動の場合は採用に入れてください。

表1.8 職系別・職名別職員数

単位:人

職 名	事務系 *		技術技能系 *		医療系 *		教務系 *		その他 *		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	女性 比率 %
課長相当職以上	27	5	4	0	2	4	1	0	0	0	34	9	43	20.9
課長補佐, 専門員等	25	6	2	0	4	0	2	0	0	0	33	6	39	15.4
係長, 専門職員等	43	26	7	1	15	35	35	6	0	0	100	68	168	40.5
主任等	17	25	1	0	1	45	2	0	0	0	21	70	91	76.9
その他一般職員	78	65	3	3	69	425	18	8	0	0	168	501	669	74.9
計	190	127	17	4	91	509	58	14	0	0	356	654	1010	64.8

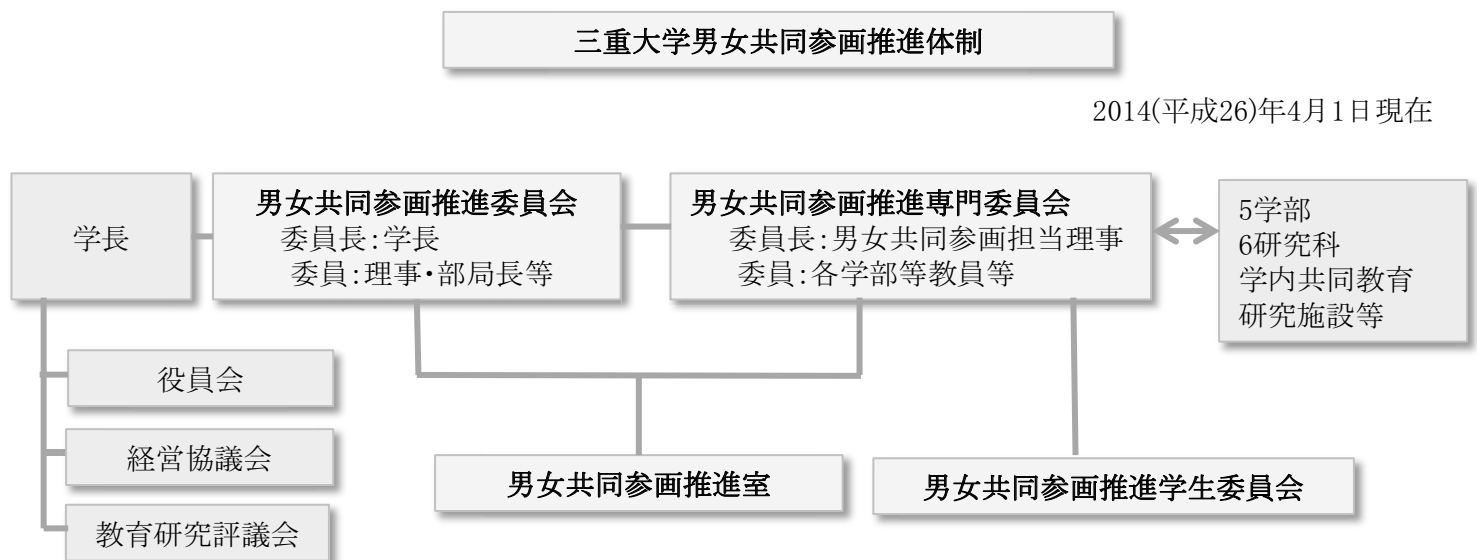
* 職系の分類は、学校基本調査に従ってください。

** 技術長、技術部主任、看護師長、看護主任等の役職者は、対応する職名(課長、係長、主任等)の欄に、その外は「その他の一般職員」の欄に記入してください。対応する職名の判断は各大学組織の実情に合わせて決めてください。

1. 三重大学男女共同参画推進組織

2012(平成24)年6月に男女共同参画推進体制の改組を行い、学長を委員長に理事及び部局長等で構成する男女共同参画推進委員会の下に、担当理事を委員長に各部局の教職員で構成する専門委員会が中心となって、男女共同参画推進室と共に女性支援、ワーク・ライフ・バランスおよび次世代育成支援等に積極的に取り組んでいます。

また、2014年(平成26)年4月に三重大学学生が主体的に男女共同参画活動に取り組むため、専門委員会の指導の下に学生委員会を設置しました。



2. 三重大学男女共同参画推進委員会規程

(平成20年3月27日規程第630号)

改正平成21年3月30日規程 平成22年3月31日規程

平成23年3月24日規程 平成24年6月28日規程

平成26年3月27日規程

(設置)

第1条 三重大学に、三重大学男女共同参画推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 男女共同参画の推進に係る基本理念に関する事項
- (2) 男女共同参画の推進方策の企画、立案及び実施に関する事項
- (3) 男女共同参画の現状分析、評価及びそれらの公表に関する事項
- (4) 男女共同参画の推進のために必要な啓発活動に関する事項
- (5) その他男女共同参画に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各理事
- (3) 各学部又は研究科の長
- (4) 教養教育機構長
- (5) 医学部附属病院長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会は、三重大学男女共同参画推進専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

2 前項の専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、三重大学男女共同参画推進室(以下「男女共同参画推進室」という。)を置く。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月30日規程)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月31日規程)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日規程)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日規程)

この規程は、平成24年6月28日から施行する。

附 則(平成26年3月27日規程)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

3. 三重大学男女共同参画推進専門委員会細則

(平成20年3月27日細則第631号)

改正 平成21年3月30日細則 平成22年3月31日細則

平成23年3月24日細則 平成24年6月28日細則

(趣旨)

第1条 この細則は、三重大学男女共同参画推進委員会規程(以下「規程」という。)第7条第2項の規定に基づき、三重大学男女共同参画推進専門委員会(以下「専門委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) 男女共同参画の推進に係る具体的方策の計画及びその実施に関する事項
- (2) 男女共同参画に関する調査及び分析に関する事項
- (3) その他三重大大学男女共同参画推進委員会から付託を受けた専門的事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事のうち学長が指名した者 1名
- (2) 各学部又は研究科から推薦された大学教員 各1名
- (3) 教養教育機構から推薦された大学教員 1名
- (4) 医学部附属病院から推薦された大学教員及び医療職員 各1名
- (5) 企画総務部長
- (6) その他本学の職員で専門委員会が必要と認めた者

2 前項第2号から第4号まで及び第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、同項第2号から第4号までの委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 専門委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員とする。

2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 専門委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 専門委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 専門委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 専門委員会の庶務は、三重大大学男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。

附 則

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月30日細則)

この細則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月31日細則)

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月24日細則)

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日細則)

この細則は、平成24年6月28日から施行する。

附 則(平成26年3月27日細則)

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

4. 三重大学男女共同参画推進学生委員会内規

平成26年3月3日内規

(趣旨)

第1条 この内規は、三重大学男女共同参画推進専門委員会（以下「専門委員会」という。）細則 第8条により、専門委員会に三重大学男女共同参画推進学生委員会（以下「学生委員会」という。）を置く。

(活動)

第2条 この学生委員会は専門委員会の指導のもと、男女共同参画推進の理念を実現するため、本学学生が男女共同参画推進事業を活動することを目的とする。

(組織)

第3条 学生委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各研究科の学生 若干名
 - (2) 各学部の学生 若干名
 - (3) その他専門委員会が必要と認めた者
- 2 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 学生委員会に委員長を置き、専門委員会が指名する。

- 2 委員長は、学生委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 学生委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 学生委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 学生委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 学生委員会の庶務は、三重大学男女共同参画推進室において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、学生委員会の運営に関し必要な事項は、学生委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

5. 三重大学男女共同参画推進室内規

(平成23年3月24日規程第701号)

改正 平成24年6月28日内規

(趣旨)

第1条 この内規は、三重大学男女共同参画推進委員会規程第7条第3項に規定する三重大学男女共同参画推進室(以下「推進室」という。)に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 推進室は、男女共同参画に関する事務を処理する。

(組織)

第3条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) その他必要な職員

(室長等)

第4条 室長は、推進室の業務を掌理し、学長が指名する。

2 副室長は、室長を補佐し、室長が指名する。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年6月28日内規)

この内規は、平成24年6月28日から施行する。

6. 2014(平成26)年度三重大学男女共同参画関係委員会等名簿

(1)三重大学男女共同参画推進委員会名簿(2014(平成26)年4月1日現在)

職 名	氏 名	備 考
学 長	内 田 淳 正	
理事・副学長	田 中 晶 善	総括・教育担当
理事・副学長	吉 岡 基	研究・情報担当
理事・副学長	朴 恵 淑	企画・評価・環境・男女共同参画担当
理事・副学長	堀 浩 樹	国際交流担当
理事・副学長	鈴 木 英	総務・財務担当
人文学部長	後 藤 基	
教育学部長	藤 田 達 生	
医学系研究科長	緒 方 正 人	
工学研究科長	伊 藤 智 徳	
生物資源学研究科長	後 藤 正 和	
地域イノベーション学研究科長	小 林 一 成	
医学部附属病院長	伊 藤 正 明	
教養教育機構長	井 口 靖	

(2)三重大学男女共同参画推進専門委員会名簿(2014(平成26)年度)

学部等	氏 名	W G	備 考
理事・副学長	朴 恵淑		企画・評価・環境・男女共同参画当
人文学部	森脇 由美子	意識改革・啓発活動部門	教授
人文学部	江成 幸	意識改革・啓発活動部門	准教授
教育学部	重松 良祐	連携部門	准教授
医学系研究科	井関 敦子	連携部門	准教授
医学系研究科	江藤 みちる	意識改革・啓発活動部門	助教
医学部附属病院	小川 朋子	理工系の女性支援・ ロールモデル研究部門	教授
医学部附属病院	門脇 文子	意識改革・啓発活動部門	看護部長 10月1日から (9月30日まで 江藤 由美 副看護部長)
工学研究科	小林 正	理工系の女性支援・ ロールモデル研究部門	教授
工学研究科	宇野 貴浩	理工系の女性支援・ ロールモデル研究部門	助教(継承事業特化)
生物資源学研究科	常 清秀	理工系の女性支援・ ロールモデル研究部門	教授
生物資源学研究科	内山 智裕	理工系の女性支援・ ロールモデル研究部門 意識改革・啓発活動部門	准教授
教養教育機構	長濱 文与	連携部門	准教授
企画総務部長	矢崎 雅之		男女共同参画推進室長 (兼務)
陪席者 村井 澄夫 企画総務副部長(人事課長), 笹岡 修一 人事チーム副課長, 木村 信之 職員課長, 小林 浩司 職員チーム副課長, 古尾谷 英明 男女共同参画推進室副室長、諸岡 眞 同室員			

(3)三重大学男女共同参画推進室名簿(2014(平成26)年4月1日現在)

職 名	氏 名	備 考
オブザーバー	朴 恵淑	理事・副学長
室長(兼務)	矢崎 雅之	企画総務部長
副室長(専任)	古尾谷 英明	
室員(兼務)	木村 信之	職員課長
室員(兼務)	小林 浩司	職員チーム副課長
室員(専任)	諸岡 眞	

三重大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

三重大学男女共同参画宣言および推進体制について

1. 三重大学男女共同参画宣言

三重大学は、平成20年7月に「三重大学男女共同参画宣言」を行って、男女共同参画を推進しています。

三重大学男女共同参画宣言

1999年6月に施行された男女共同参画社会基本法は、性別による偏りのない社会システム、つまり男女共同参画社会の構築を定めるものです。この課題は、21世紀のもっとも中核的なテーマであり、基本法前文においても、「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」として位置づけられ、2005年12月には男女共同参画基本計画(第2次)が閣議決定されています。

三重大学は、1945年以前からの高等教育研究機関として、三重県という地域社会と共に歩みながら、1949年に新制大学として発足し、5学部と附属病院・附属学校を擁する総合大学として発展を遂げてきました。21世紀を迎え、この発展をより確かなものとするために三重大学は、男女共同参画の実現に向けて解決や検討を要する課題に果敢に取り組み、性別にかかわらず学生、教職員がその個性と能力を遺憾なく発揮できる、生き生きとした教育研究環境をめざさなければなりません。また、地域社会の一員として発展を遂げようとする三重大学は、男女共同参画社会にふさわしい人材の育成に努めるとともに、地域社会における男女共同参画の実現に寄与する社会的使命を持つものと考えます。

以上の観点から、三重大学は、男女共同参画社会基本法及び男女共同参画基本計画の趣旨をふまえ、以下の基本方針により、男女共同参画社会の実現に向けて、積極的に寄与することをここに宣言します。

【基本方針】

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究組織の確立をめざす
2. 男女共同参画の視点から制度や慣行を見直し改善する
3. 仕事と個人生活とのバランスに配慮し、男女共同参画の観点から必要な支援を行う
4. 学生・教職員に対して、男女共同参画に関する啓発活動を行う
5. 男女共同参画を推進する地域の組織や自治体との協働・連携を推進する

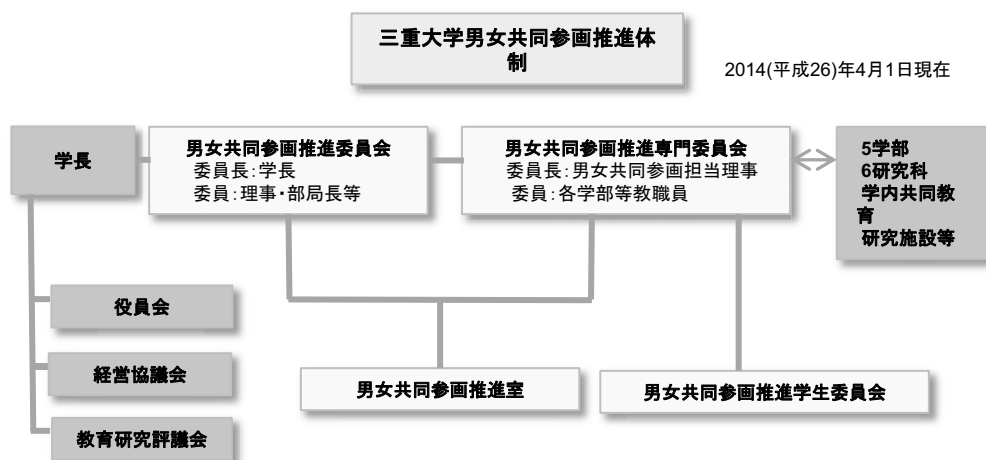
平成20年7月24日
三重大学長 豊田 長 康

 MIE UNIVERSITY

2. 男女共同参画推進体制

平成24年6月に男女共同参画推進体制の改組を行い、学長を委員長に理事及び部局長等で構成する男女共同参画推進委員会の下に、担当理事を委員長に各部局の教職員で構成する専門委員会が中心となって、男女共同参画推進室と共に女性支援、ワーク・ライフ・バランスおよび次世代育成支援等に積極的に取り組んでいます。

また、2014年(平成26)年4月に三重大学学生が主体的に男女共同参画活動に取り組むため、専門委員会の指導の下に学生委員会を設置しました。



三重大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

三重大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

三重大学男女共同参画推進専門委員会が中心となって活動しています。

平成26年度三重大学男女共同参画推進専門委員会

回	日	事項
1	5月12日(月)	○ 「ファザーリング全国フォーラムinみえ」について ○ 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」との連携について ○ 平成26年度前期共通教育授業「男女共同参画基礎」について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会活動報告書2013」及び「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の刊行について ○ 教育学部男女共同参画推進委員会報告書について
2	7月16日(水)	○ 平成26年度後期共通教育授業「男女共同参画実践」について ○ 「ファザーリング全国フォーラムinみえ」について ○ 「三重男女共同参画協議会(仮称)」について ○ 「みえ女性活躍推進連携会議」について ○ 国立大学協会「男女共同参画小委員会」について
3	9月24日(水)	○ 平成26年度後期共通教育授業「男女共同参画実践」について ○ 国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査(第11回)結果について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会活動報告書2014」について ○ 「M祭! 2014キッズ・アート・フェスティバル」の実施結果について ○ オープンキャンパスの実施結果について ○ 尾鷲市男女共同参画審議会委員長について ○ 三重大学男女共同参画推進専門委員会委員の交代について
4	1月20日(火)	○ 「三重男女共同参画協議会(仮称)」について ○ 平成27年度教養教育授業計画について ○ 「三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書 2014」について ○ 「大学等における男女共同参画推進セミナー」について ○ 国立大学協会「男女共同参画小委員会」について
5	3月 日()	○ 平成27年度男女共同参画推進体制について ○ 平成27年度前期「男女共同参画基礎」授業日程について ○ 三重県男女共同参画審議会委員について ○ 三重県「女性活躍推進連携会議」について

男女共同参画推進委員会委員による授業 共通教育「男女共同参画基礎」



工学部男女共同参画推進委員会 オープンキャンパス



女子学生による進路相談コーナー



男女共同参画推進活動紹介



生物資源学部USR委員会 オープンキャンパス



女子学生による研究紹介



連携研究機関紹介



男女共同参画推進活動紹介



三重大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
 TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
 〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

三重大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

平成26年度共通教育授業「男女共同参画基礎」、「男女共同参画実践」を開講しました。

三重大学は、平成24年度から共通教育において男女共同参画に関する授業を開講しており、平成26年度は前期に「男女共同参画基礎」、後期に「男女共同参画実践」を開講しました。

これらの授業は、三重大学男女共同参画推進専門委員会委員および非常勤講師が順次リレー方式で担当します。

平成26年度前期「男女共同参画基礎」

「男女共同参画基礎」では、男女共同参画を担当する朴恵淑理事・副学長による講義および男女共同参画推進室の見学をはじめとして15回の講義が行われ、さらに、特別授業として文部科学省主催のワールド・カフェ「100人男子会×女子会(だんじょかい)」に参加し、学生同士が男女共同参画の観点から意見交換を行いました。

第1回講義および男女共同参画推進室見学
朴 恵淑理事・副学長



第4回、第5回講義 佐伯 富樹先生
(三重大学名誉教授、三重県男女共同参画審議会会長)



第6回講義 小川 眞里子先生
(三重大学名誉教授)



第7回講義 伊藤 久美子先生
(三重県立斎宮博物館長、前三重県環境生活部次長)



第13回講義 西岡 慶子先生
(株式会社機械製作所 代表取締役社長)



特別授業 文部科学省主催 ワールド・カフェ 「100人男子会×女子会」



平成26年度後期「男女共同参画実践」

「男女共同参画実践」は、三重大学、自治体、企業及び市民グループ等が行う男女共同参画事業の見学や実践を通じて、学生が男女共同参画の視点に立ち、地域との連携の意義や活動のノウハウを学ぶものです。

学生は、三重県及び津市の男女共同参画フォーラムに参加し、三重大学アカデミックフェアにおいて、それらの成果を発表する予定です。

第1回講義および男女共同参画推進室見学
朴 恵淑理事・副学長及び小川眞里子名誉教授



11月9日 三重県男女共同参画フォーラム



12月6日 津市男女共同参画フォーラム
三重大学紹介パネル展示



三重大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

三重大大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」に参加しました。

平成26年6月28日(土)、四日市市文化会館で開催された「ファザーリング全国フォーラムinみえ」に参加しました。

パネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」の分科会11として、三重大大学主催のパネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは！～新しいカタチの組織・教育・生活～」を開催しました。

各界を代表するパネリストから、それぞれの組織をどのように変革させたのか男女共同参画の目線で紹介し、200人を超える参加者と共に「男女共同参画先進県 三重」を創るための成果を共有し、課題を見出し、未来像を探りました。

また、シンポジウムの最後には、コーディネーターを務めた朴 恵淑三重大大学理事・副学長から、三重の男女共同参画をさらに推進するため産官学民の連携による「三重男女共同参画協議会(仮称)」を創設することが提案され、参加者の賛同を得ました。



ワールド・カフェ「100人男子会×女子会(だんじょかい)！～学生だけの本音ミーティングinみえ」

「ファザーリング全国フォーラムinみえ」の分科会10として、文部科学省主催のワールド・カフェ「100人男子会×女子会(だんじょかい)！～学生だけの本音ミーティングinみえ」に三重大大学男女共同参画推進学生委員会の学生たちを中心に県内外から116人の学生が参加し、ワールド・カフェ形式で、学生自身が希望する生き方や働き方について考え、それらの希望を実現するにはどうすればよいか男女共同参画の観点から話し合いました。



三重大大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

三重大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

三重大学は地域と連携して男女共同参画意識啓発事業を実施しています。

三重大学は、三重県男女共同参画センター フレンテみえ及び女性研究者連携協議会(パールネットみえ)と連携して、男女共同参画意識啓発活動を行っています。

「フレンテまつり」に参加しました。

6月7日(土)、8日(日)の両日、三重県総合文化センターの三重県男女共同参画センター フレンテみえで開催された「フレンテまつり」に参加しました。

この催しは、フレンテみえの登録団体による舞台発表、活動展示およびフリーマーケットなどを通じて、楽しく男女共同を発信するというものです。

本学は、フレンテみえの関係機関として参加し、三重大学男女共同参画推進専門委員会の活動を紹介するパネル展示や「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の紹介などを行いました。



「M祭！2014キッズ・アート・フェスティバル」に参加しました。

8月3日(日)、三重県総合文化センターで開催された「M祭！2014 キッズ・アート・フェスティバル」に参加し、三重大学は、女性研究者連携協議会(パールネットみえ)および三重県男女共同参画センター フレンテみえと連携して「テクノガールのカガク工房」を開催しました。

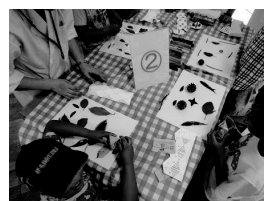
今年のテーマは、「カライドサイクルづくり」と「自分色のオリジナルクレヨンづくり」。

「カライドサイクルづくり」は、三重大学大学院工学研究科の教員、学生およびパールネットみえの女性研究者の指導により、最初に予め準備した図柄のカライドサイクルを作り、次に、白紙の用紙に自分の好きな図柄を描いて作りました。



「自分色のオリジナルクレヨンづくり」は、三重大学教育学部の学生の指導により、庭園で採取した草や木の実、葉、枝等をクレヨン代わりにして画用紙に貼り付け、自由に絵を描きました。

この日は6回の開催で200人を超える子どもたちが参加し、付添いの方々と共にものづくりを楽しみました。



三重大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

三重大学男女共同参画推進活動ダイジェスト版

三重大学は地域と連携して男女共同参画推進活動を行っています。

「女性の大活躍推進三重県会議」のキックオフ大会に参加

11月9日(日)フレンテみえで開催された「女性の大活躍推進三重県会議」のキックオフ大会に三重大学の男女共同参画を担当する 朴 恵淑 理事・副学長が参加しました。

この会議は、三重県が県内における女性の活躍推進の機運を醸成し、より多くの企業・団体等が共に取組を進めていけるように設置したものです。

三重大学は、この会議の創設を支援するために設置された、県内経済団体等で構成する「みえ女性活躍推進連携会議」に参加し、協力しています。

また、「女性の大活躍推進三重県会議」に会員として参加するとともに、顧問として活動を支援していきます。

キックオフ大会では、三重県知事及び同会議共同代表の挨拶、知事と佐々木 常夫(株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役との対談に続いて、知事及び会員企業・団体の代表者によるキックオフ宣言が行われました。

「女性の大活躍推進三重県会議」 キックオフ宣言

私たちは、
自らの組織において女性が持てる力を存分に発揮し
活躍できるよう率先して取り組み、
女性が輝く三重をめざして踏み出すことを宣言します。

平成26年11月9日



女性の大活躍推進三重県会議
キックオフ大会



三重県知事挨拶



三重県知事対談



三重県知事及び会員企業等の代表者によるキックオフ宣言



三重大学男女共同参画推進室 URL: <http://www.mie-u.ac.jp/danjo/>
TEL&FAX: 059-231-9830 E-mail: danjo@ab.mie-u.ac.jp
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地

追悼

元三重大学学長アドバイザー 鈴山雅子氏逝去

元三重大学学長アドバイザー鈴山雅子氏は、2014(平成 26)年 6 月 8 日逝去されました。

同氏は、三重大学が、2008(平成 20)年 7 月に「三重大学男女共同参画宣言」を行った翌年、男女共同参画活動の草創期である 2009(平成 21)年度に三重大学男女共同参画コーディネーターに就任され、2012(平成 24)年度からは学長アドバイザーとして、2014(平成 26)年 3 月まで本学の男女共同参画推進活動を牽引してこられました。

学内においては、共通教育や教員免許状更新講習会の男女共同参画授業科目の開設に携わり、さらに、自ら非常勤講師として学生や教員を指導されました。

また、三重地域の産官民との連携を通じて女性支援、ワーク・ライフ・バランスおよび次世代育成支援等に尽力されました。

それらの業績は、三重大学が、2013(平成 25)年 10 月三重県の「男女がいきいきと働いている企業」認証を取得し、同年 11 月、三重県知事表彰「グッドプラクティス賞」を受賞することにつながりました。

鈴山先生のご尽力に感謝いたしますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



故 鈴山雅子氏



平成 23 年志摩市男女共同参画事業に協力(片田中学校)



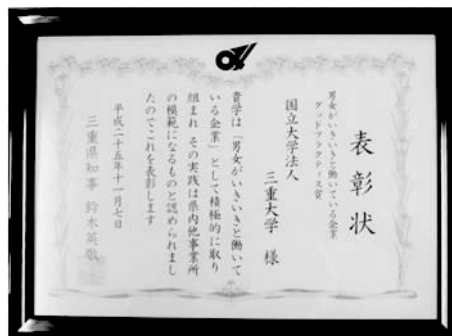
平成 24 年学生指導
(学長アドバイザー室)



平成 25 年「男女共同参画基礎」
授業



平成 25 年 10 月 1 日三重県
「男女がいきいきと働いている
企業」認証取得



平成 25 年 11 月 7 日三重県知事表彰「グッドプラクティス賞」受賞



表紙のシンボルマークについて



三重県「男女がいきいきと働いている企業」認証制度のマークです。



三重県「男女がいきいきと働いている企業」表彰制度のマークです。

三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書 2014

2015(平成 27)年 3 月発行

発行者 三重大学男女共同参画推進専門委員会

連絡先 三重大学男女共同参画室

住 所 〒514-8507 津市栗真町屋町 1577

電話・FAX 059-231-9830

E-mail danjo@ab.mie-u.ac.jp

